

アール・ブリュット検討部会 報告書

参考資料（案）

平成29年1月19日

東京芸術文化評議会アール・ブリュット検討部会

目次

1. アール・ブリュットの認知度調査	1
1. 調査について	1
2. 調査結果	2
2 国内外の展示に係る調査	7
1. 展覧会調査・国内	7
2. 展覧会調査・国外	13
3. 都内における作品制作に係る調査	19
1. 都内におけるアール・ブリュット制作に係る団体等調査.....	19
4. 各種機関による普及啓発取組調査	26
1. 区市町村調査	26
2. 道府県調査	31
3. その他団体等調査	36
5. アール・ブリュット展示の結果報告	42
1. 展示の目的	42
2. 実施概要	42
3. アンケート結果分析	43

1. アール・ブリュットの認知度調査

国内の20歳代～60歳代の男女に対し、アール・ブリュットの認知度について調査を実施した。

1. 調査について

(1) 調査の概要

本調査では、アール・ブリュットについてのWEBアンケート調査を実施し、社会における認知状況を確認した。

(2) 調査の対象

東京都の状況を他と比較しながら確認を行うことを想定して、「①東京都」、周辺地域との差異確認のため、「②埼玉県・千葉県・神奈川県」の3県、アール・ブリュットに積極的に取り組んでいる「③滋賀県」の3地域に居住する20歳代～60歳代の男女を対象とした。①～③については、年代×性別で35人を最低回収数の値とし、各地域において計350人以上、3地域の計としては1,050人以上が回収できるよう設定した。

[最低回収数]

(人)

		計	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳
東京都	男性	175	35	35	35	35	35
	女性	175	35	35	35	35	35
	計	350	70	70	70	70	70
埼玉県・千葉県・神奈川県	男性	175	35	35	35	35	35
	女性	175	35	35	35	35	35
	計	350	70	70	70	70	70
滋賀県	男性	175	35	35	35	35	35
	女性	175	35	35	35	35	35
	計	350	70	70	70	70	70
合計	男性	525	105	105	105	105	105
	女性	525	105	105	105	105	105
	計	1,050	210	210	210	210	210

① 調査の実施期間

平成28年2月3日(水)～平成28年2月8日(月)

② 調査の方法

WEBによるアンケート調査

③ 回収状況

回収状況

(人)

		計	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳
東京都	男性	224	40	51	52	39	42
	女性	204	39	47	44	38	36
	計	428	79	98	96	77	78
埼玉県・千葉県・神奈川県	男性	215	39	39	52	44	41
	女性	200	38	46	38	39	39
	計	415	77	85	90	83	80
滋賀県	男性	219	39	42	45	53	40
	女性	183	35	40	35	38	35
	計	402	74	82	80	91	75
合計	男性	658	118	132	149	136	123
	女性	587	112	133	117	115	110
	計	1,245	230	265	266	251	233

2. 調査結果

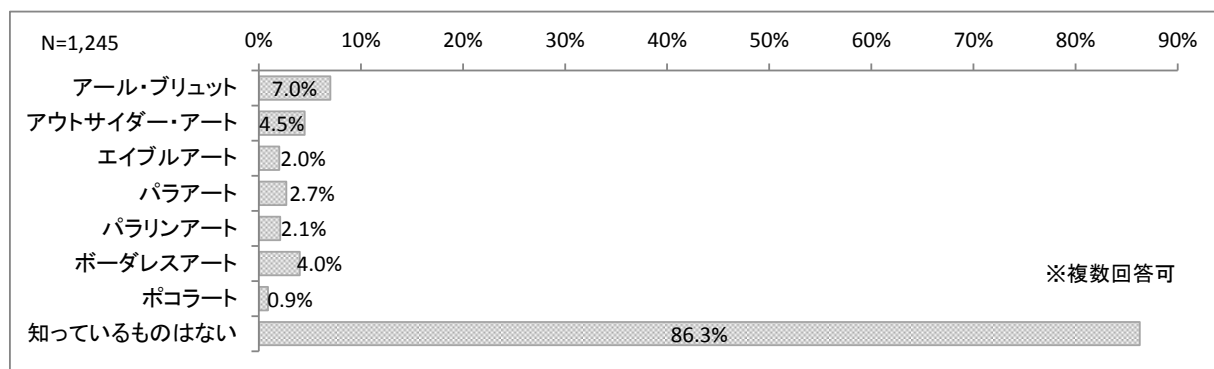
(1) アール・ブリュットの認知

「アール・ブリュット」という言葉について、その他の関連する用語と比較すると、全体的に認知度は低いものの、その中では最も「アール・ブリュット」という用語の認知度が高くなっている（全体で7.0%）。

3地域での認知度を見てみると、東京都の場合、「アール・ブリュット」（5.4%）と「アウトサイダー・アート」（5.1%）はほぼ同程度、周辺3県の場合は「アウトサイダー・アート」（5.1%）の方が「アール・ブリュット」（3.1%）より高くなっている。一方、アール・ブリュットを積極的に展開する滋賀県の場合、「アール・ブリュット」（12.7%）と他地域の倍近くであり、周知が進んできたことがうかがわれる。

知ったきっかけとしては、「美術展やイベント等の告知」、「新聞や雑誌等の記事や本」、「ニュースやテレビ・ラジオの番組」の割合が高くなっていることは3地域共通である。一方、滋賀県の場合、「都道府県や市区町村の取り組み」（21.6%）をあげる割合が他地域よりも高くなっている。

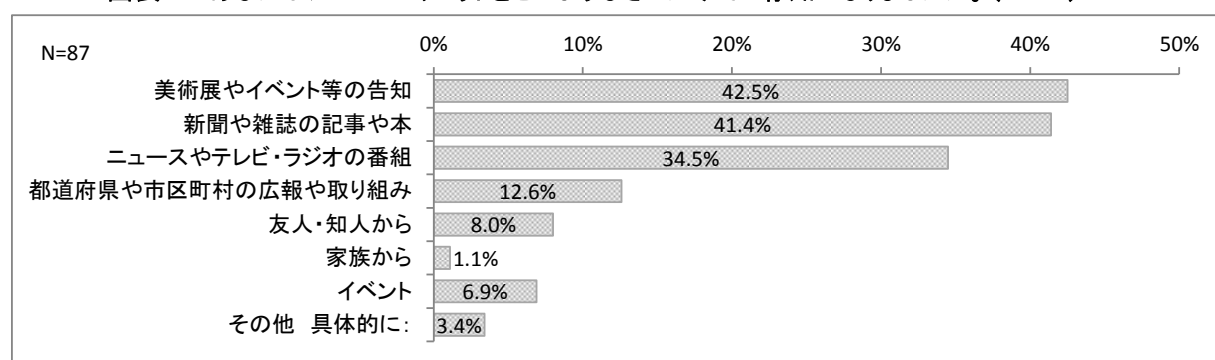
図表- 1 以下にあげる用語の中で、知っている用語はありますか。(N=1,245)



(単位：%)

	回答数(人)	・ア ブル リ ュ ット	・ア ウト サイ ダー	エイ ブル アート	パ ラ ア ート	パ ラ リ ン ア ート	ポ ー ダ レス ア ート	ポ コ ラ ート	は 知 っ て い る も の
全体	1,245	7.0	4.5	2.0	2.7	2.1	4.0	0.9	86.3
20-29歳	230	5.7	4.3	1.7	1.7	1.3	2.2	0.4	89.6
30-39歳	265	4.5	3.8	1.9	2.3	1.9	3.0	1.1	90.6
40-49歳	266	8.6	3.4	2.3	3.4	2.3	2.6	0.8	85.7
50-59歳	251	8.4	5.6	1.6	2.8	2.8	7.2	1.2	81.3
60-69歳	233	7.7	5.6	2.6	3.4	2.1	5.2	0.9	84.1
男性計	658	6.7	4.3	2.4	2.6	1.7	2.9	1.2	86.2
女性計	587	7.3	4.8	1.5	2.9	2.6	5.3	0.5	86.4
東京都計	428	5.4	5.1	2.1	3.3	2.6	4.2	0.7	88.6
東京都男性計	224	5.8	3.6	2.7	2.2	2.2	2.7	0.9	88.8
東京都女性計	204	4.9	6.9	1.5	4.4	2.9	5.9	0.5	88.2
周辺3県計	415	3.1	5.1	2.4	2.4	1.7	3.6	1.0	89.9
周辺3県男性計	215	3.7	6.0	2.8	2.3	1.9	3.7	1.4	87.4
周辺3県女性計	200	2.5	4.0	2.0	2.5	1.5	3.5	0.5	92.5
滋賀県計	402	12.7	3.2	1.5	2.5	2.0	4.2	1.0	80.1
滋賀県男性計	219	10.5	3.2	1.8	3.2	0.9	2.3	1.4	82.2
滋賀県女性計	183	15.3	3.3	1.1	1.6	3.3	6.6	0.5	77.6

図表- 2 あなたはアール・ブリュットをどのようなきっかけでご存知になりましたか。(N=87)



(単位：%)

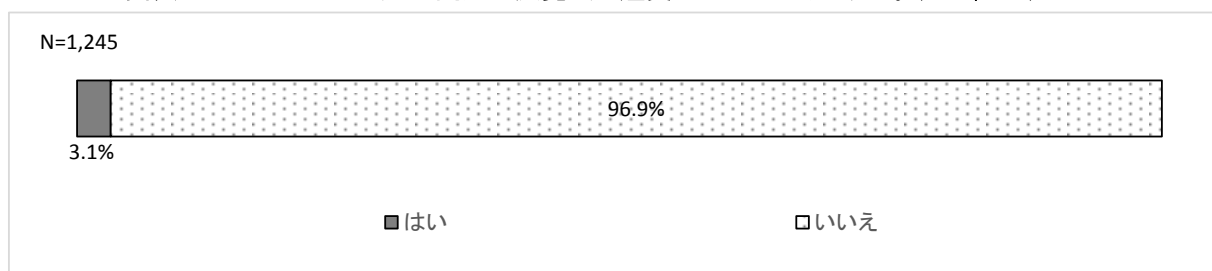
	回答数(人)	告知 イベント等の	美術展や	新聞や雑誌の 記事や本	・ニュースやテレビ ラジオの番組	都道府県や 市区町村の 広報や取り 組	友人・知人から	家族から	イベント	その他
全体	87	42.5	41.4	34.5	12.6	8.0	1.1	6.9	3.4	
20-29歳	13	61.5	30.8	15.4	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0	
30-39歳	12	50.0	8.3	41.7	8.3	16.7	0.0	25.0	8.3	
40-49歳	23	34.8	52.2	34.8	17.4	0.0	0.0	0.0	4.3	
50-59歳	21	28.6	42.9	38.1	4.8	14.3	4.8	14.3	0.0	
60-69歳	18	50.0	55.6	38.9	16.7	0.0	0.0	0.0	5.6	
男性 計	44	47.7	38.6	34.1	9.1	4.5	2.3	6.8	0.0	
女性 計	43	37.2	44.2	34.9	16.3	11.6	0.0	7.0	7.0	
東京都 計	23	26.1	43.5	34.8	0.0	21.7	0.0	13.0	4.3	
東京都 男性 計	13	23.1	46.2	30.8	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	
東京都 女性 計	10	30.0	40.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0	10.0	
周辺3県 計	13	38.5	30.8	30.8	0.0	15.4	7.7	0.0	0.0	
周辺3県 男性 計	8	25.0	25.0	37.5	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	
周辺3県 女性 計	5	60.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	
滋賀県 計	51	51.0	43.1	35.3	21.6	0.0	0.0	5.9	3.9	
滋賀県 男性 計	23	69.6	39.1	34.8	17.4	0.0	0.0	8.7	0.0	
滋賀県 女性 計	28	35.7	46.4	35.7	25.0	0.0	0.0	3.6	7.1	

(2) アール・ブリュットの展示

「アール・ブリュット」の展覧会を鑑賞したことがある者の割合は、全体で 3.1%と低い状況である。調査対象の3地域の中で、滋賀県は最も高い割合を示している。

「アール・ブリュット」の展覧会を鑑賞した際の場所について聞いたところ(複数回答可)、東京都、周辺3県の2地域の場合、美術館をあげる割合が過半数を超えている。一方、滋賀県の場合、「市民館等の公共施設」の割合が最も高い(58.8%)。また、あまり他地域では割合の高くない「ギャラリー」(29.4%)が次に続き、「美術館」・「百貨店などの商業施設」(いずれも23.5%)が次に続き、他地域と比較して展示の場のバリエーションがあることがうかがわれる。

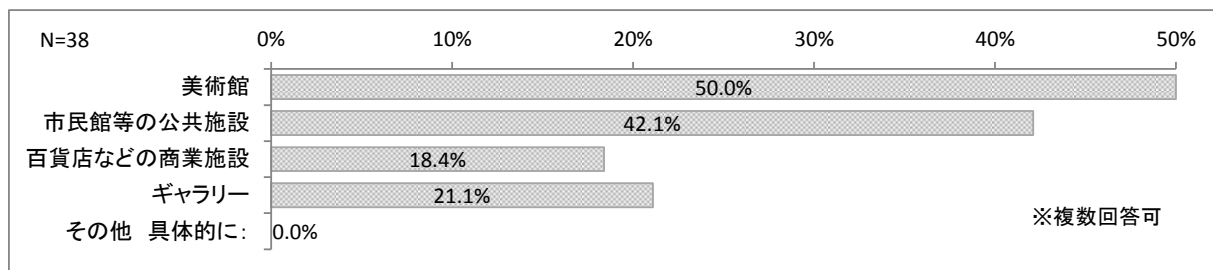
図表- 3 アール・ブリュットの関連の展覧会を鑑賞したことがありますか。(N=1,245)



(単位：%)

	回答数 (人)	はい	いいえ
全体	1,245	3.1	96.9
20-29歳	230	2.6	97.4
30-39歳	265	3.0	97.0
40-49歳	266	4.1	95.9
50-59歳	251	2.8	97.2
60-69歳	233	2.6	97.4
男性 計	658	3.2	96.8
女性 計	587	2.9	97.1
東京都 計	428	3.0	97.0
東京都 男性 計	224	2.2	97.8
東京都 女性 計	204	3.9	96.1
周辺3県 計	415	1.9	98.1
周辺3県 男性 計	215	3.3	96.7
周辺3県 女性 計	200	0.5	99.5
滋賀県 計	402	4.2	95.8
滋賀県 男性 計	219	4.1	95.9
滋賀県 女性 計	183	4.4	95.6

図表- 4 アール・ブリュット関連の展覧会を鑑賞された場所はどこでしょうか。(N=38)



(単位：%)

	回答数 (人)	美術館	市民館等の公共施設	百貨店などの商業施設	ギャラリー	その他
全体	38	50.0	42.1	18.4	21.1	0.0
20-29歳	6	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0
30-39歳	8	62.5	25.0	25.0	37.5	0.0
40-49歳	11	54.5	63.6	9.1	9.1	0.0
50-59歳	7	28.6	71.4	14.3	28.6	0.0
60-69歳	6	33.3	33.3	16.7	33.3	0.0
男性 計	21	52.4	38.1	19.0	23.8	0.0
女性 計	17	47.1	47.1	17.6	17.6	0.0
東京都 計	13	76.9	38.5	15.4	15.4	0.0
東京都 男性 計	5	100.0	40.0	0.0	20.0	0.0
東京都 女性 計	8	62.5	37.5	25.0	12.5	0.0
周辺3県 神奈川県・埼玉県・千葉県 計	8	62.5	12.5	12.5	12.5	0.0
周辺3県 男性 計	7	57.1	14.3	14.3	14.3	0.0
周辺3県 女性 計	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
滋賀県 計	17	23.5	58.8	23.5	29.4	0.0
滋賀県 男性 計	9	22.2	55.6	33.3	33.3	0.0
滋賀県 女性 計	8	25.0	62.5	12.5	25.0	0.0

(3) その他

「アール・ブリュット作品の展示の場について、より多くの人が集まり、作品を楽しむためには、どのような要素や工夫があるとよいと思いますか」を自由回答によって確認したところ、認知度をあげることを目的とする「宣伝・周知活動」、目に触れる機会を多くすべきとする「展示や展示の場の工夫」をあげる回答が多くみられた。

2 国内外の展示に係る調査

2000 年度以降に開催された国内外のアール・ブリュット展示について調査を実施した。

1. 展覧会調査・国内

(1) 調査について

① 調査の概要

本調査では、2000 年度以降にアール・ブリュット関連の展覧会を開催した国内の美術館等（以下、「施設」という）に調査を実施した。

② 調査の対象

資料等をもとにした予備調査を実施し、対象となる施設及び展覧会の抽出を行った。予備調査においては、2000 年度以降にアール・ブリュットと考えられる展覧会を開催した専門美術館を除く美術館等は 64 施設、これに専門美術館 8 施設（①るんびにい美術館、②にしぴりかの美術館、③はじまりの美術館、④もうひとつの美術館、⑤ボーダレス・アートミュージアム NO-MA、⑥みずのき美術館、⑦軀の津ミュージアム、⑧藁工ミュージアム）を加えた合計 72 施設を調査対象とした。回答は 56 施設（8 つの専門美術館含む）から得られ、展示についての回答数は一般美術館で 113 件、専門美術館で 220 件の計 333 件となった。

なお、以上の調査対象は予備調査において一定程度の網羅性を前提に把握したものであるが、全数調査ではないため、調査対象以外にアール・ブリュット関連の展覧会が存在していた場合は把握できていない可能性がある。

③ 調査の実施期間

平成 28 年 2 月 15 日（月）～平成 28 年 2 月 26 日（金）

④ 調査の方法

メール送付もしくは郵送による自記式アンケート調査

⑤ 回収状況

調査対象（配布数） 72 件（8 つの専門美術館含む）

回収した調査票 56 件（8 つの専門美術館含む）

※専門美術館では一部電話ヒアリングや WEB に掲載されている展覧会情報の把握を行った。

回収率 77.8%

⑥ その他

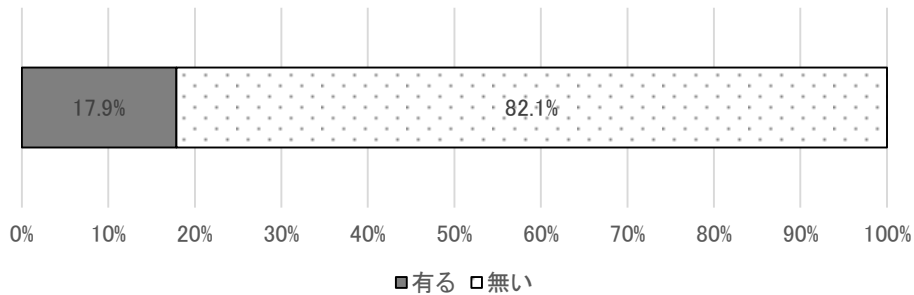
質問項目によって回答率が大きく異なる場合があることから、各設問の N 値についてはそれぞれの有効回答数としている。

(2) 調査結果の概要

① アール・ブリュット関連の作品を常設したコーナーの有無

回答があった施設におけるアール・ブリュット関連の常設展示については、10施設(17.9%)が「有る」としている。なお、10施設中の8施設はアール・ブリュットの専門美術館である。

図表- 5 アール・ブリュット関連の常設コーナーの有無(N=56)



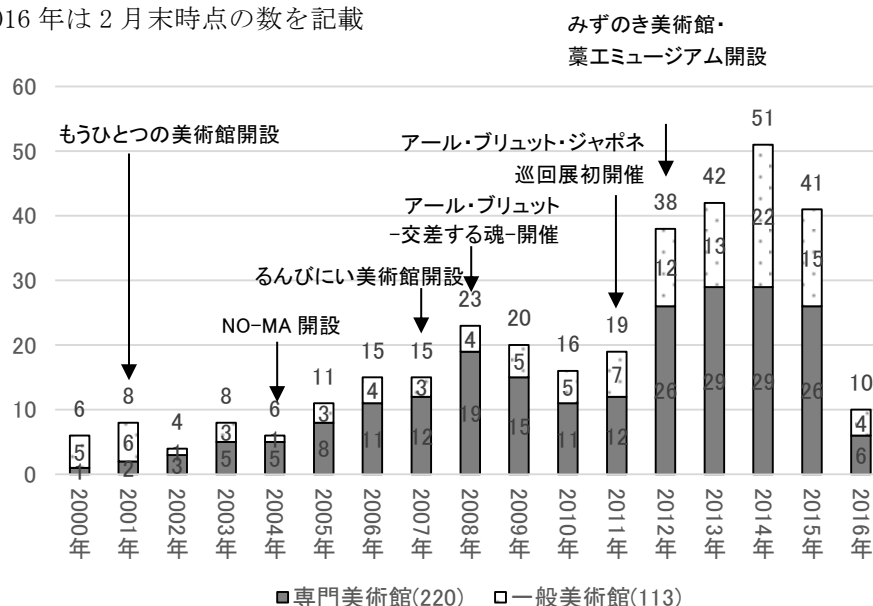
② アール・ブリュット関連の展覧会数

回答があった展覧会をみると、2000年度以降は年々増加傾向にある。特に2012年度以降は、一般美術館でのアール・ブリュット関連の展覧会が増えている。

2008年度には、既に定評のあった海外のアール・ブリュット・コレクションと日本の作家による作品を展示した「アール・ブリュット-交差する魂-」が国内3ヶ所(北海道旭川美術館、パナソニック汐留ミュージアム、NO-MA)で開催された。さらに、2010年~2011年にかけてパリで開催された日本人作家による「アール・ブリュット・ジャポネ展」が高い評価を得て、2011年以降は凱旋展として国内各地で巡回展が開催された(2011年度:埼玉県立近代美術館、新潟市美術館、2012年度:高浜市やきものの里かわら美術館、岩手県立美術館、2013年度:高知県立美術館、福岡市美術館、熊本市現代美術館にて開催)。以上の展覧会では協賛企業も大企業が多く、広報や宣伝も大規模に展開されたものと考えられる。近年の展覧会の増加傾向には、これらによってアール・ブリュットに対する社会の周知が進んだ等の背景も考えられる。

図表- 6 2000年以降のアール・ブリュット関連の展覧会数(年別)(56施設回答による)

※2016年は2月末時点の数を記載

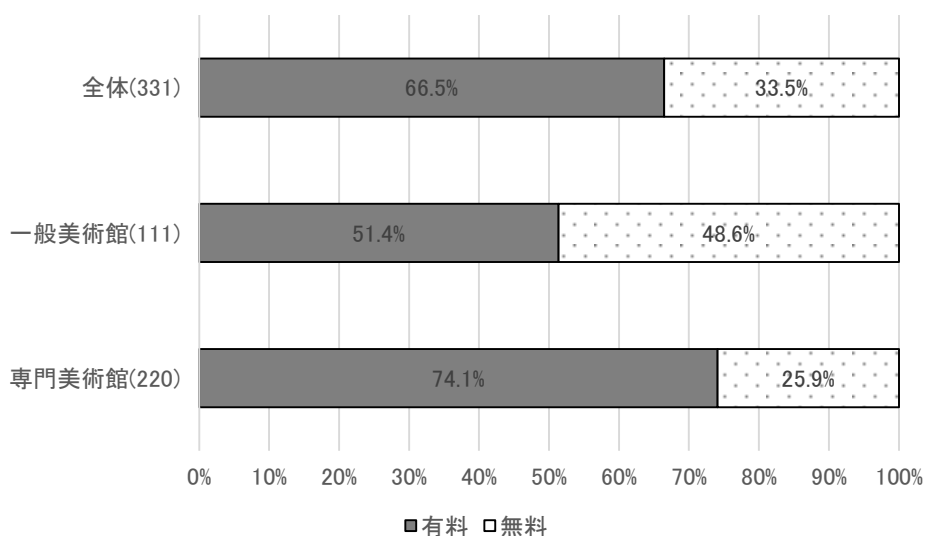


③ アール・ブリュット関連の展覧会の観覧料

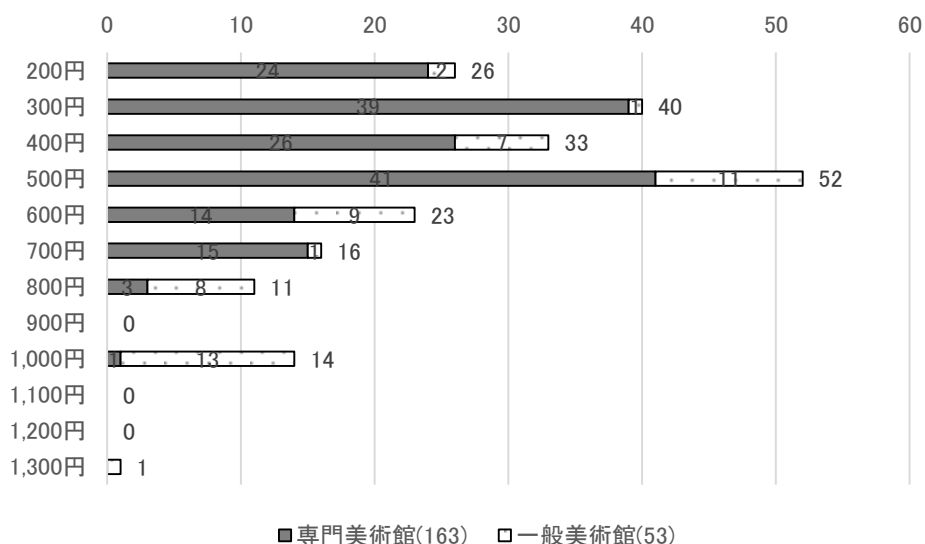
回答があった展覧会の観覧料は、全体では「有料」が66.5%、「無料」が33.5%である。観覧料を「無料」とする割合については、一般美術館の場合はさらに増えて48.6%であるが、専門美術館の場合は25.9%である。

観覧料の設定では、一般美術館では「1,000円」(13件)が最大の価格帯であり、次に多いのが「500円」(11件)、「600円」(9件)である。一方、専門美術館では「500円」(41件)が最多であり、「300円」(39件)、「400円」(26件)となっている。専門美術館では一般美術館に比べ有料の展覧会が多いものの、価格帯は一般美術館に比べ低く、500円以下の価格設定となっている展覧会は130件あり、専門美術館における展覧会の約8割となっている。

図表- 7 アール・ブリュット関連展覧会の観覧料①(N=331)



図表- 8 アール・ブリュット関連展覧会の観覧料②(N=216)

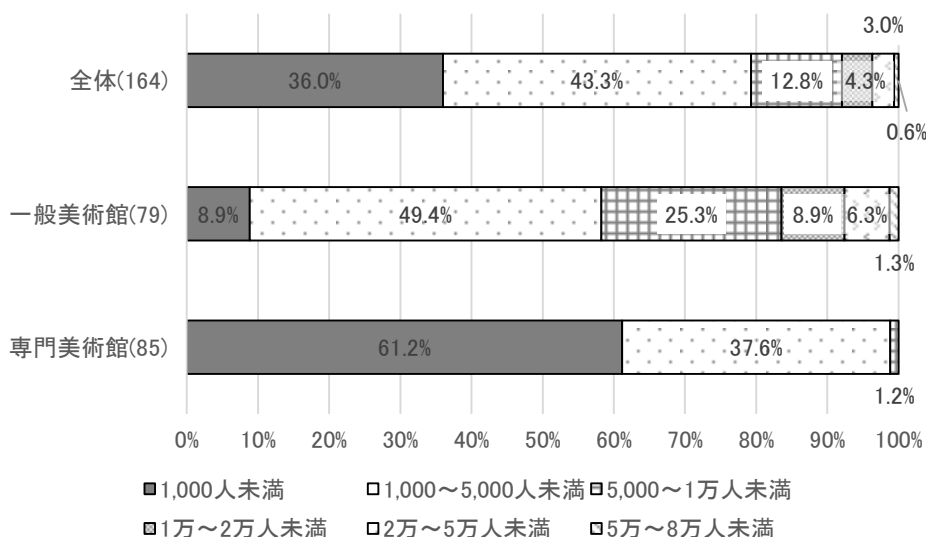


④ アール・ブリュット関連の展覧会の入場者数

回答があった展覧会のうち、全体の約8割が5,000人未満の入場者数である。

一般美術館と専門美術館でみると、専門美術館は一般美術館に比べ、入場者が1,000人未満の小規模な展覧会が多くなっている。一方、一般美術館では1万人を超える展覧会が16.5% (13件) ある。

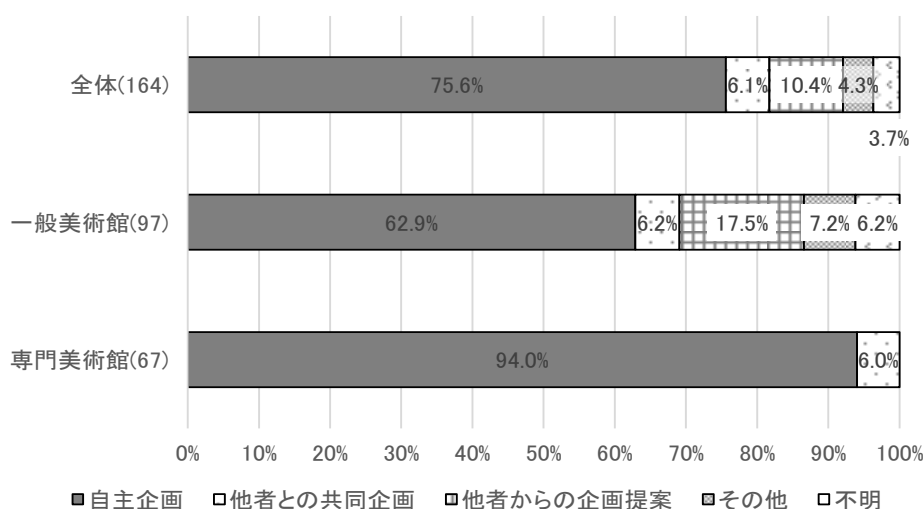
図表- 9 アール・ブリュット関連展覧会の入場者数(N=164)



⑤ アール・ブリュット関連の展覧会の企画

回答があった展覧会のうち、全体では75.6%が「自主企画」であり、多数を占める。特に専門美術館では94.0%が「自主企画」である。一般美術館でも「自主企画」が多いが、専門美術館にはない「他社からの企画提案」が増えている。

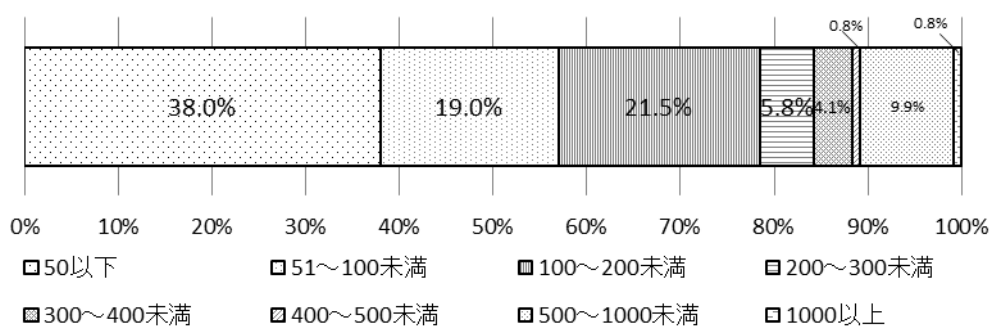
図表- 10 アール・ブリュット関連展覧会の企画(N=164)



⑥ 展覧会の作品数

回答があった展覧会の作品数では、「50以下」が38.0%と最も多く、次いで「100～200未満」が21.5%、「51～100未満」が19.0%であり、約8割が200未満である。

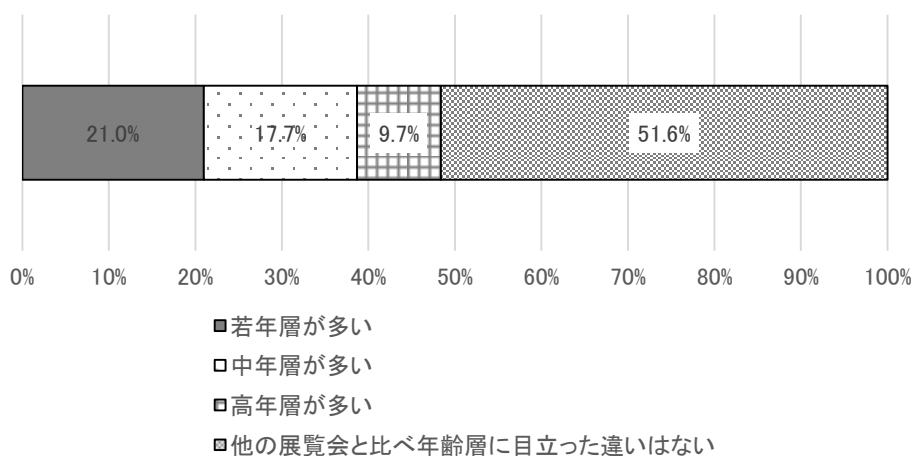
図表- 11 アール・ブリュット関連展覧会の連展覧会の作品数(N=121)



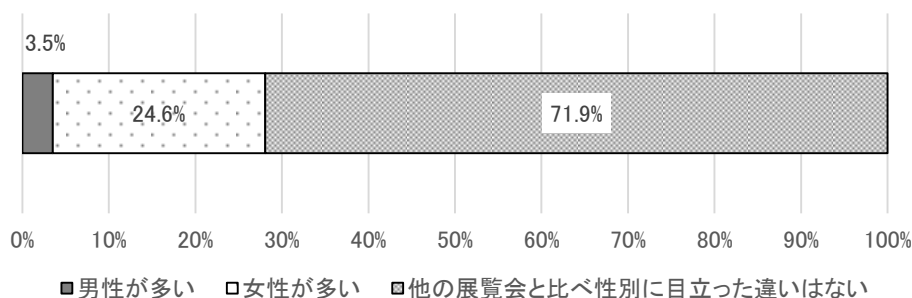
⑦ アール・ブリュット関連の展覧会における来場者の特徴

回答のあった展覧会については、年齢層、性別、同行者のいずれについても「他の展覧会と比べ目立った違いはない」とする回答が最多を占める。それ以外では、年齢層は若年層および中年層、性別は女性、入場者は複数人及び出展当事者の関係者による来場が多くみられる。

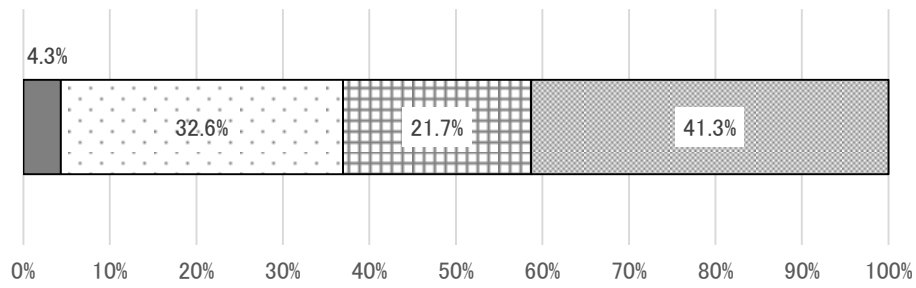
図表- 12 アール・ブリュット関連展覧会の入場者の特徴(年齢層)(N=62)※不明を除く



図表- 13 アール・ブリュット関連展覧会の入場者の特徴(性別)(N=57)※不明を除く



図表- 14 アール・ブリュット関連展示会の入場者の特徴(同行者)(N=46)※不明を除く



- 個人による来場者が多い
- 2名以上の複数人による来場者が多い
- ▣出展当事者の関係者による来場者が多い
- ▤他の展示会と比べ同行者に目立った違いはない

2. 展覧会調査・国外

(1) 調査について

① 調査の概要

本調査では、アール・ブリュット関連の展覧会を開催したパリ、ロンドン、ニューヨークの美術館等に調査を行い、その展示状況の確認を行った。

② 調査の対象

資料及び現地施設に対するヒアリング結果等をもとに、対象と考えられる展示 100 件を抽出し、それらを調査対象とした。

③ 調査の実施期間

平成 28 年 2 月 15 日（月）～平成 28 年 2 月 26 日（金）

④ 調査の方法

メール送付もしくは郵送による自記式アンケート調査

⑤ 回収状況

調査対象（配布数）	100 件
回収した調査票	55 件
回収率	55.0%

⑥ その他

質問項目によって回答率が大きく異なる場合があることから、各設問の N 値についてはそれぞれの回答数としている。

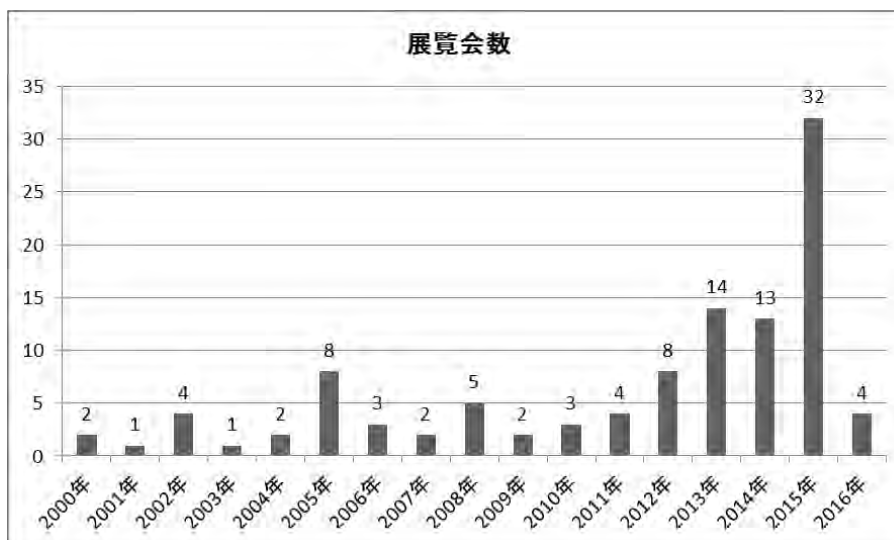
(2) 調査結果の概要

① アール・ブリュット関連の展覧会数

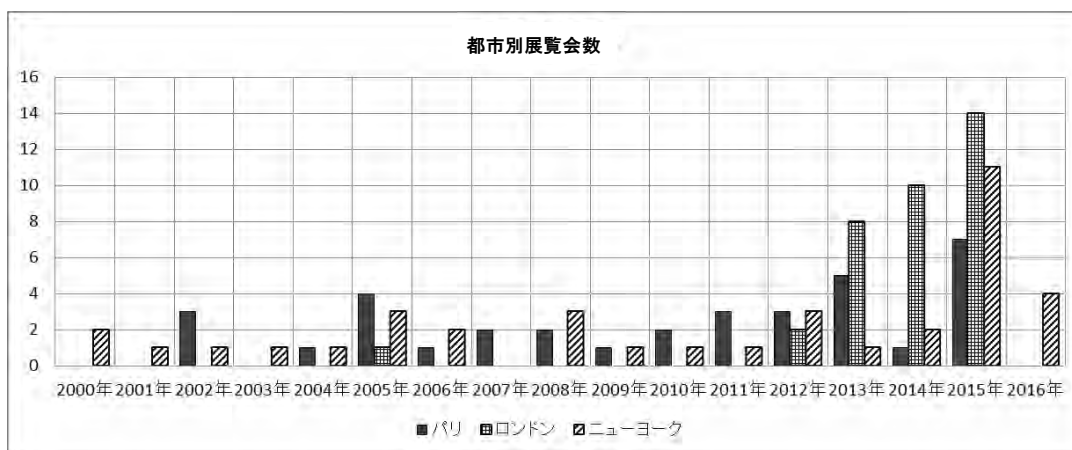
本調査の予備調査で抽出した 2000 年以降のアール・ブリュット関連の展覧会数をみると、年々増加傾向となっている。

図表- 15 2000 年以降のアール・ブリュット関連の展覧会数(N=108)

※2016 年は 2 月末時点の数を記載



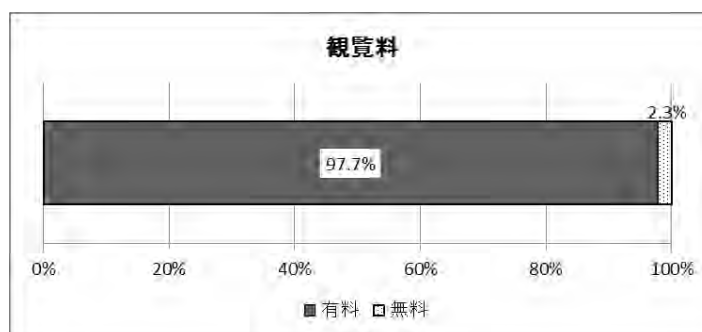
図表- 16 都市別に見た 2000 年以降のアール・ブリュット関連の展覧会数(N=108)



② アール・ブリュット関連展覧会の観覧料

回答があった展覧会の 97.7%が「有料」である。

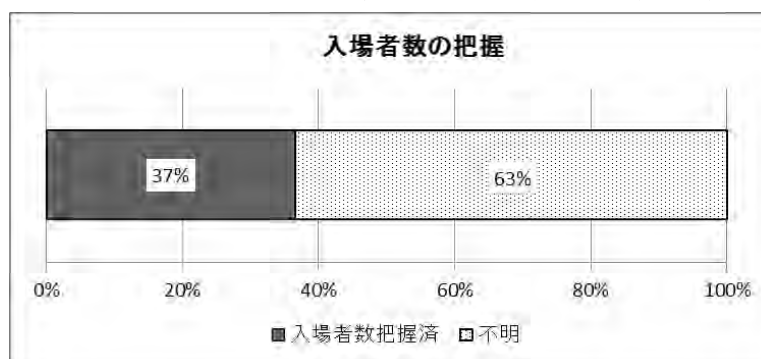
図表- 17 アール・ブリュット関連展覧会の観覧料(N=44)



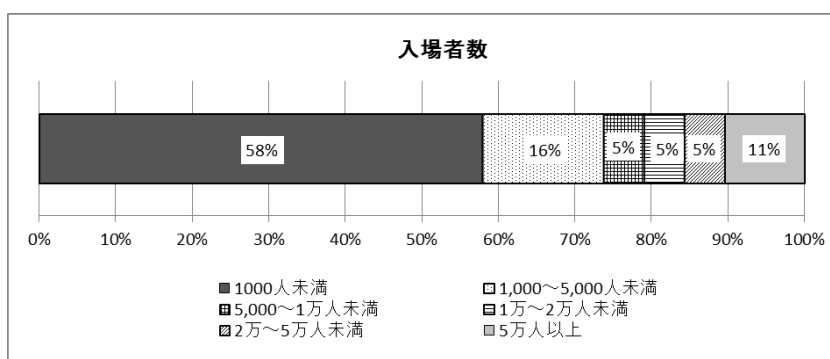
③ 入場者数

回答があった展覧会のうち、入場者数が把握できているものは37%（19件）であり、うち74%が5,000人未満である。

図表- 18 アール・ブリュット関連展覧会の入場者数の把握(N=44)



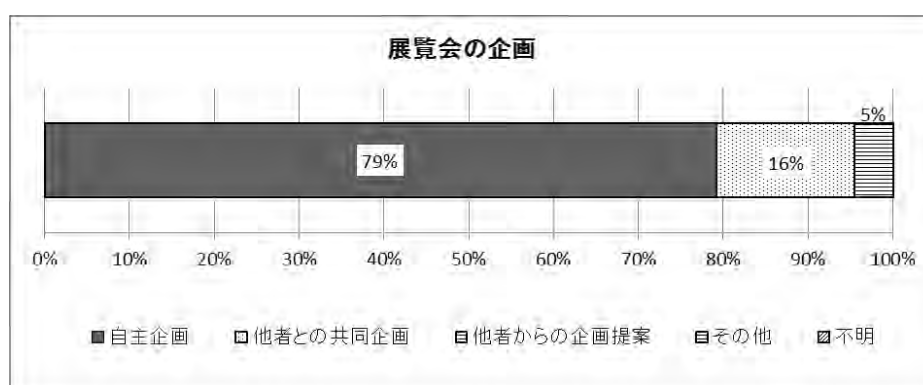
図表- 19 アール・ブリュット関連展覧会の入場者数(N=19)



④ 展覧会の企画

回答があった展覧会の79%が「自主企画」による展覧会の企画を行っており、次いで「他者との共同企画」が16%である。共同企画者では、アート・コレクターや美術雑誌(Raw Vision)、また日本の施設（ボーダレス・アートミュージアム NO-MA）といった回答が見られる。

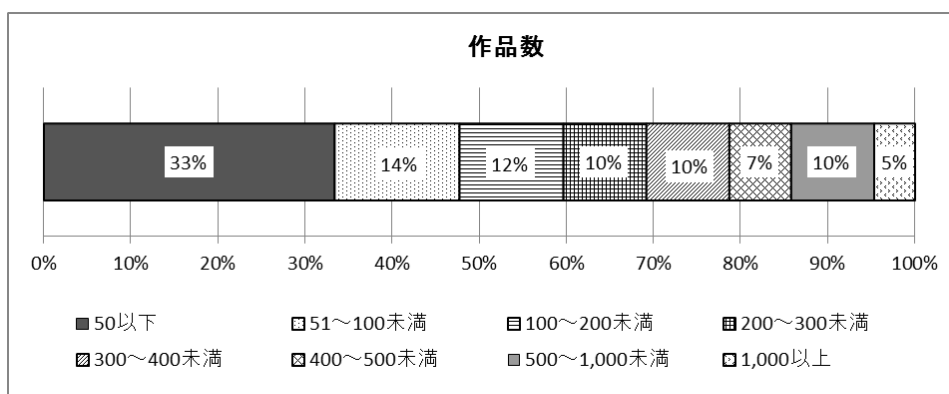
図表- 20 アール・ブリュット関連展覧会の企画(N=43)



⑤ 展覧会の作品数

回答があった展覧会の作品数では、「50以下」が33%と最も多く、次いで「51～100未満」が14%、「100～200未満」が12%であり、約6割が200未満である。

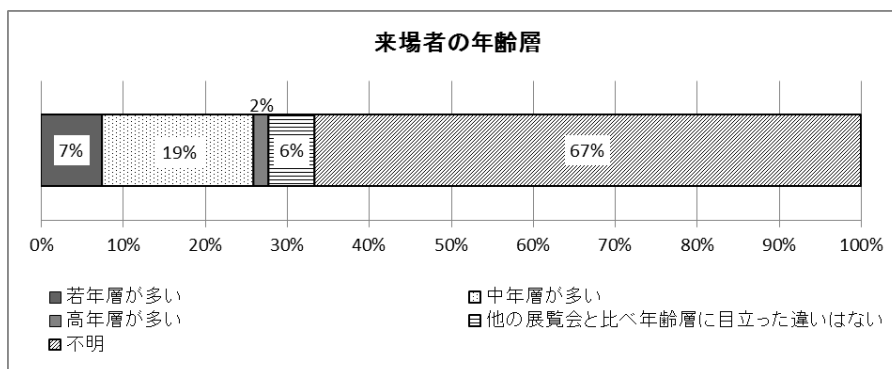
図表- 21 アール・ブリュット関連展覧会の作品数(N=42)



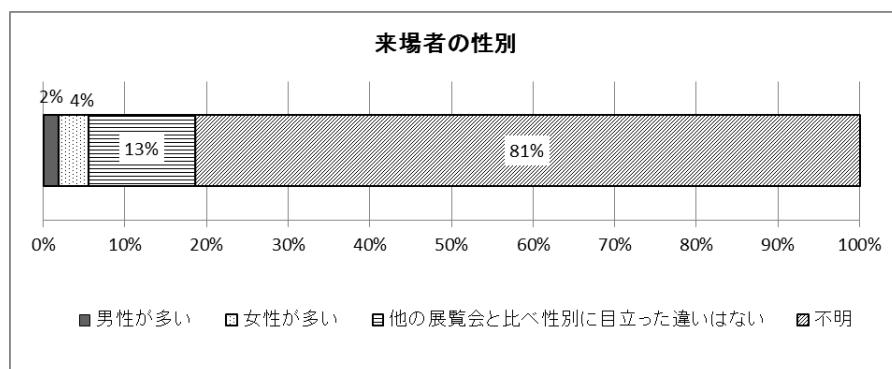
⑥ アール・ブリュット関連展覧会における来場者の特徴

来場者の特徴を把握できている展覧会が少ないものの、年齢層においては「中年層が多い」という回答が多く、性別及び同行者においては「他の展覧会と比べ目立った違いはない」とする回答が多い。

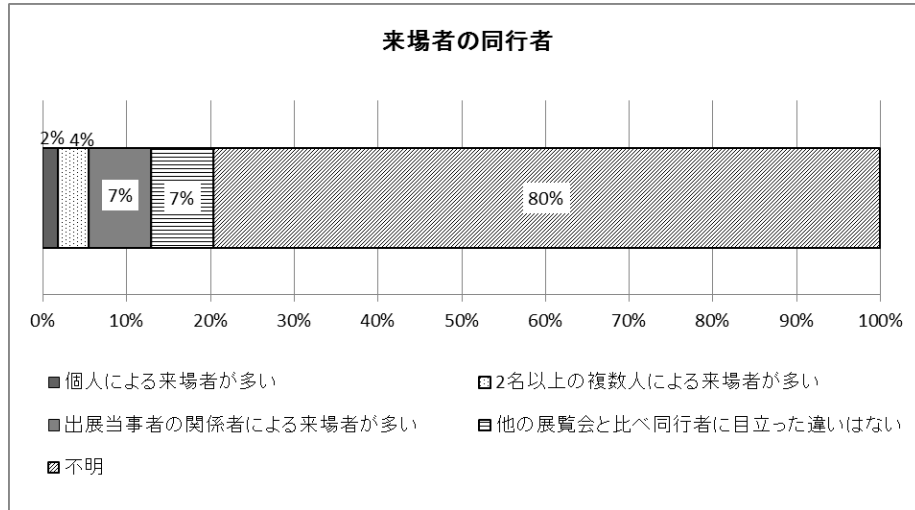
図表- 22 アール・ブリュット関連展覧会の入場者の特徴(年齢層) (N=54)



図表- 23 アール・ブリュット関連展覧会の入場者の特徴(性別) (N=54)



図表- 24 アール・ブリュット関連展覧会の入場者の特徴(同行者) (N=54)



(3) その他

3市の展覧会を調査する中では、次が確認された。

■ ロンドン

ロンドンの展覧会調査の過程では、アール・ブリュット (outsider art) の普及やアーティストの養成について主体的に取り組んでいる団体による展開が確認されている。ロンドンでは、Outside In という組織及びその美術館である Pallant House Gallery による展示が多く、イギリス国内においても非常に重要な役割を担っている。

また、アール・ブリュット専門美術館である Bethlem Gallery は、実際の行政区はロンドン近郊のケント州に位置するが、ロンドンへの通勤圏でもあることからロンドン郊外と見なされており、アール・ブリュット展開のための重要な拠点のひとつとなっている。

■ パリ

パリの展覧会調査の過程では、アール・ブリュットに対する保健福祉団体が組織的に取り組んでいる状況と、それに関連してアール・ブリュットの定義に関わる議論が生じていることが確認されている。

フランスでは、知的障がいを持つ人々は ESAT (Établissement et service d'aide par le travail) という保健福祉施設で社会生活を送っており、ESAT を中心とする団体がパリ市の後援を得て「アトリエで活動する人たちの発表の場」を作ることを目指している。その1つとして、パリ市運営の Pavillon Carré de Baudouin で 2011 年 7 月に ESAT のアトリエ 40 周年を記念した展覧会「Essentiel – 40 ans d'art brut et singulier」、同年 12 月に Réfectoire des Cordeliers でパリのアトリエの作家 57 名と 2 団体が参加した「EXIL L'Art Brut parisien」が開催されている。しかし、同展に対するアール・ブリュット関係者からの作品選定に係る批判、他方で保健福祉施設である ESAT では作品制作が「治療や社会参加」としての活動に位置付けられていることから、アール・ブリュットの定義等に対する美術界、アール・ブリュット関係者、福祉関係者間の対話を今後の課題とする指摘もある¹。

■ ニューヨーク

ニューヨークの展覧会調査の過程では、アール・ブリュットを広く展開しようとする動きのあることが確認されている。アメリカン・フォークアート・ミュージアムは、18 世紀から現在までのフォークアートの幅広いコレクションを持つアメリカ有数の美術館であるが、コンテンポラリーアートセンターを通じて、アメリカ及び海外からの現代と過去のアール・ブリュット作品の展示を行っている。

アール・ブリュットに係る比較的大規模なイベントとしては、1992 年から Outsider Art Fair が毎年開催されているが、2013 年の Wide Open Arts への運営主体の変更により、同年にはパリでの開催も行うなど活動の広がりがみられる。

¹ 参考文献：『アール・ブリュット アート 日本』（2013 年、保坂健二朗監修）

3. 都内における作品制作に係る調査

制作の現場の状況などについて調査を実施した。

1. 都内におけるアール・ブリュット制作に係る団体等調査

(1) 調査について

① 調査の概要

本調査では、アール・ブリュット作品の制作現場に対して、制作現場の状況、公募展等への応募状況等の調査を行い、取組状況を確認した。

② 調査の対象

日本のアール・ブリュット作品の発見は、主に障がい者福祉、精神医療の場で進み、制作活動もそこでの日中活動や療法の場で行われてきた経緯がある。そのため、制作現場を①福祉系（障がい者の福祉施設や作業所の日中活動等）、②医療系（精神科医療施設の療法やデイケア等）、③教育系（特別支援学校・学級における美術活動等）の場と想定し、抽出に先立ち、それらの事業者団体にヒアリングを行った。（ヒアリング及びインターネット・文献調査、公募展の応募状況から、継続的に制作活動を行っていると考えられる団体の抽出を行い、調査対象とした。）

③ 調査の実施期間

平成 28 年 3 月 8 日（火）～平成 28 年 3 月 22 日（火）

④ 調査の方法

メール送付もしくは郵送による自記式アンケート調査

⑤ 回収状況

調査対象（配布数）	43 団体
回収した調査票	28 団体
回収率	65.1%

(2) 調査結果の概要

本調査において回答のあった 28 団体は、次のとおりである。

社会福祉法人の事業所の場合は知的障がい者を対象とした支援施設、医療法人等の病院については精神科病院、NPO 法人（以下、「NPO 法人」という）、株式会社の場合は主に知的障がい者を対象とした就労支援事業の実施、学校については特別支援学校となっている。

社会福祉法人	13 団体	46.4%
医療施設(精神科病院)	7 団体	25.0%
NPO 法人	4 団体	14.3%
株式会社	1 団体	3.6%
学校	3 団体	10.7%
計	28 団体	100.0%

① 制作活動開始の動機・経緯について

本調査対象の 7 割近くが知的障がい者の事業所、精神科病院である。そのため、開始の動機・経緯については、それら施設を利用する者の余暇活動、社会参加、自己実現をきっかけとしたとする回答がほとんどである。

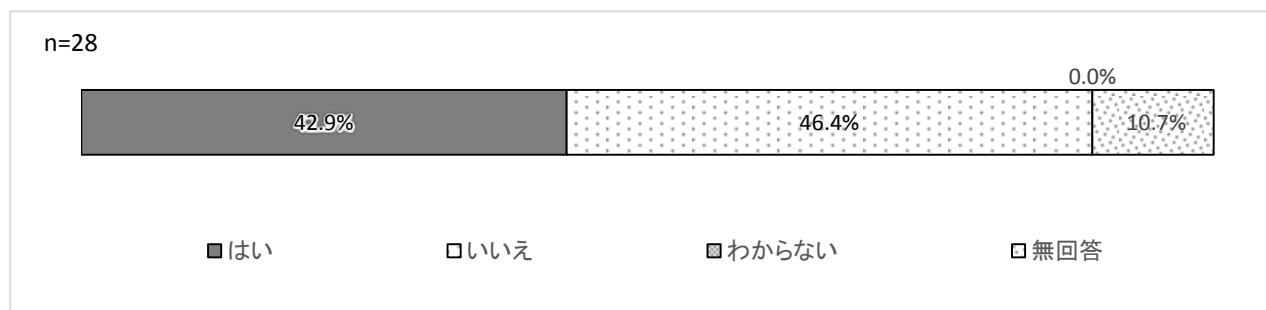
主な回答：

- ・利用者等の活動の一環として (57.1%)
- ・支援者の出現・支援の開始等をきっかけとして(10.7%)
- ・芸術文化活動を目的として(7.1%)

② 制作を行うための専用の場所(アトリエ、工房、作業所等)の有無

専用の場所を持っている団体は 12 団体・4 割以上を占める。なお、12 団体のうち、未回答以外の全てが施設内・事業所内にあるとしており、NPO 法人の 2 団体以外は全て自己所有である。専用の場所を持っていない団体は、施設内・事業所内にあるスペースを共有して使用している。

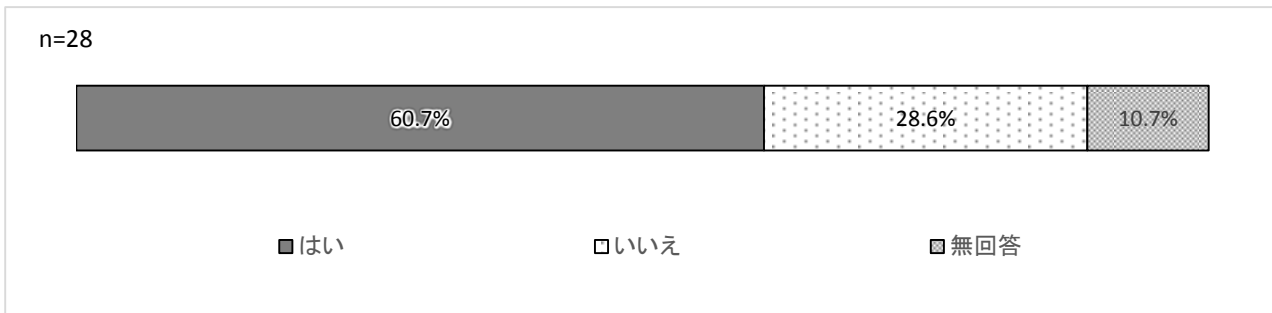
図表- 25 制作を行うための専用の場所の有無(N=28)



③ 制作するための設備の所有

設備を所有するのは 17 団体・6 割を占める。なお、所有しているもので多いのは、陶芸用の窯で 11 団体、縫製・染物の設備が 8 団体である。

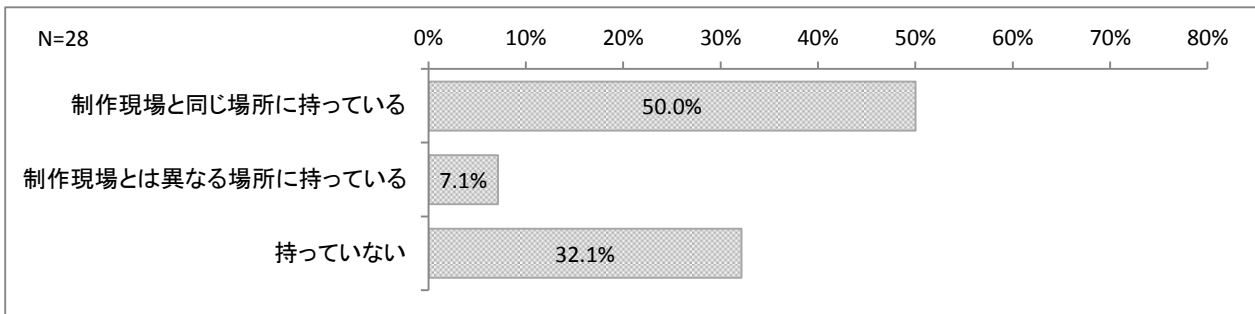
図表- 26 制作するための設備の所有(N=28)



④ 作品を展示する場の有無

作品を展示する場を持っているのは16団体で6割近くであり、うち制作現場と同じ場所に持っているのは14団体、異なる場所にあるのは2団体にとどまる。

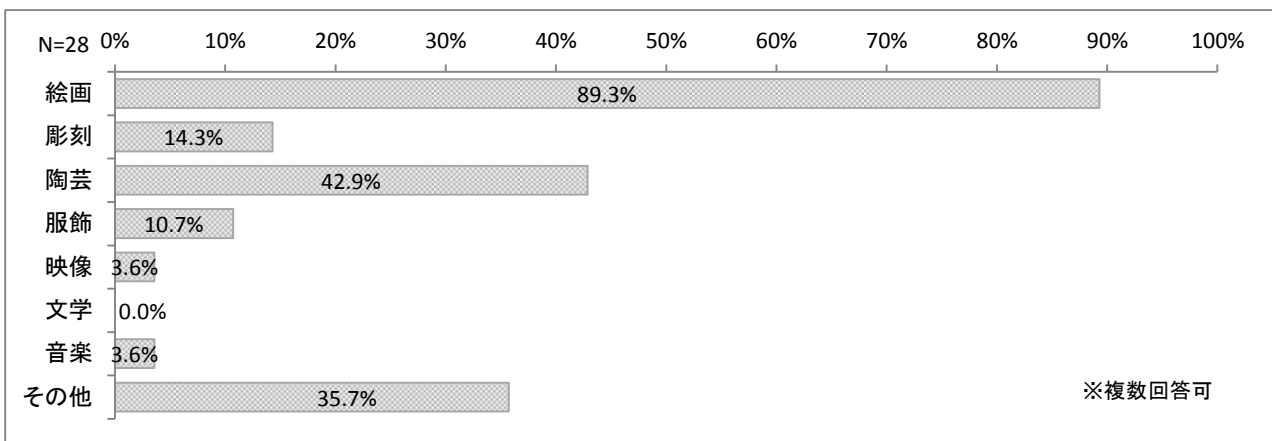
図表- 27 作品を展示する場の有無(N=28)



⑤ 制作している作品のジャンル

制作している作品のジャンルで最も多いのは絵画であり、25団体・約9割を占める。次いで多いのは12団体・4割以上を占める陶芸、4団体・14.3%の彫刻である。

図表- 28 制作している作品のジャンル(N=28)



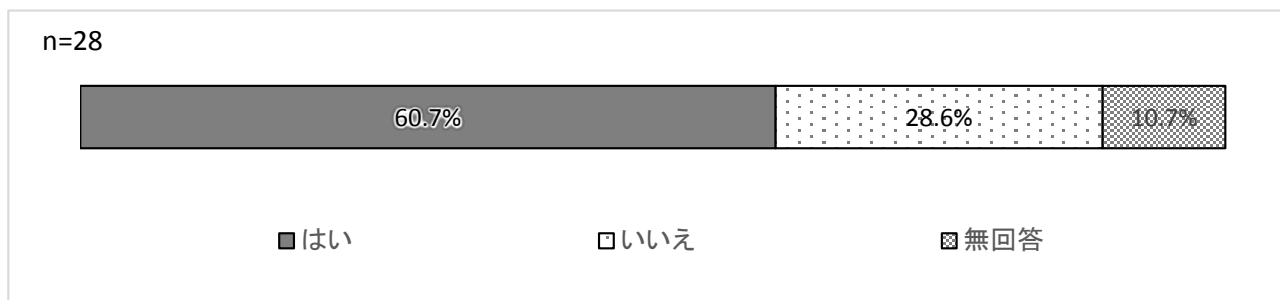
⑥ 制作した作品の保管・管理

制作された作品を制作現場で保管している団体は、17 団体・6 割を占める。

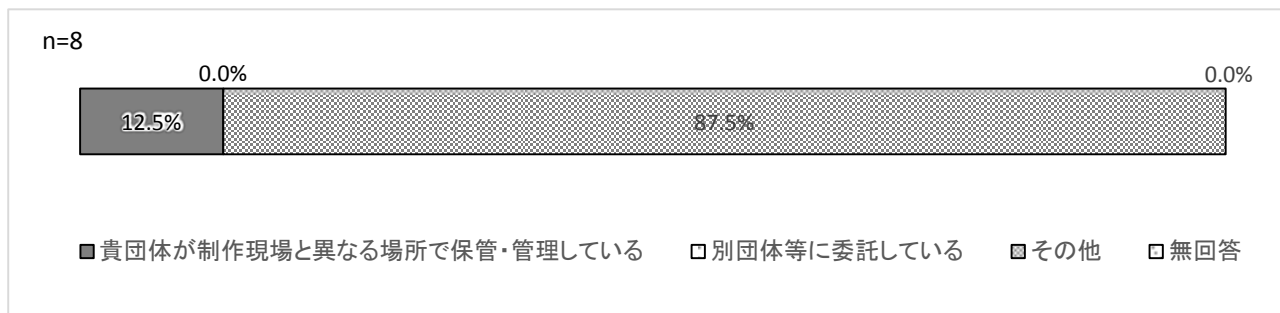
保管しているものとしては、絵画とする回答が殆どであるが、その作品数は 20～3,000 までと団体によって異なる。なお、所有形態としては、本人からの委託を受けているのが 8 団体、団体所有であるのが 6 団体である。

制作現場で保管していない場合、1 団体のみが異なる場所で保管していると回答しているものの、それ以外の 7 団体は「その他」であり、いずれも作者に返却、作家自身が保管等と回答しており、特に保管はしていないものと考えられる。

図表- 29 制作現場における作品の保管・管理(N=28)



制作現場で保管していない場合の対応(N=8)

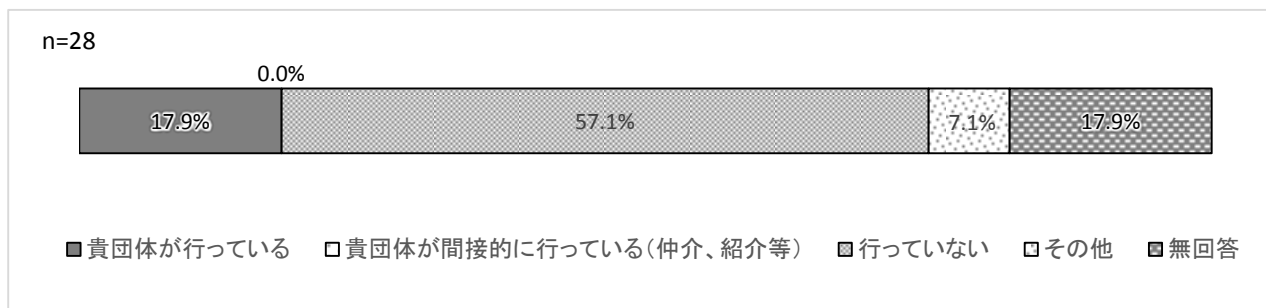


⑦ 作品および関連商品の販売

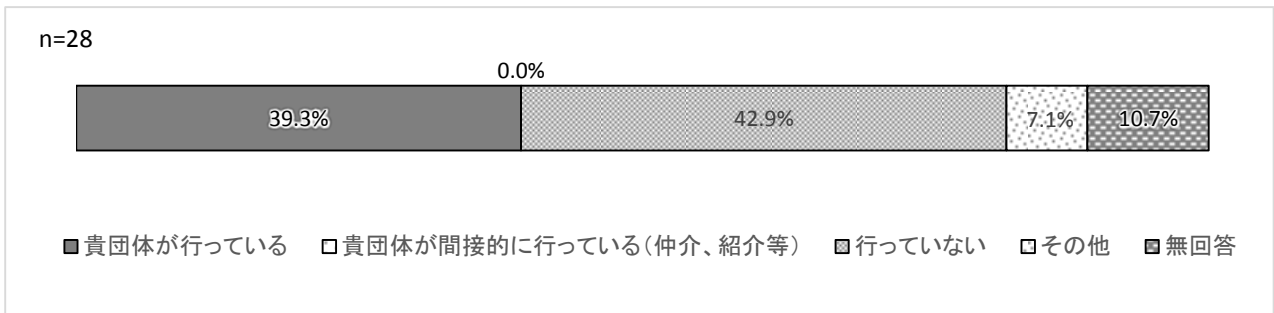
作品の販売を行っているのは、5 団体・2 割弱であり、仲介・紹介等を行っている団体はない。なお、5 団体のうち 3 団体は社会福祉法人、2 団体は医療施設と株式会社である。

関連商品を販売しているのは、11 団体・約 4 割であり、仲介・紹介等を行っている団体はない。

図表- 30 作品の販売(N=28)



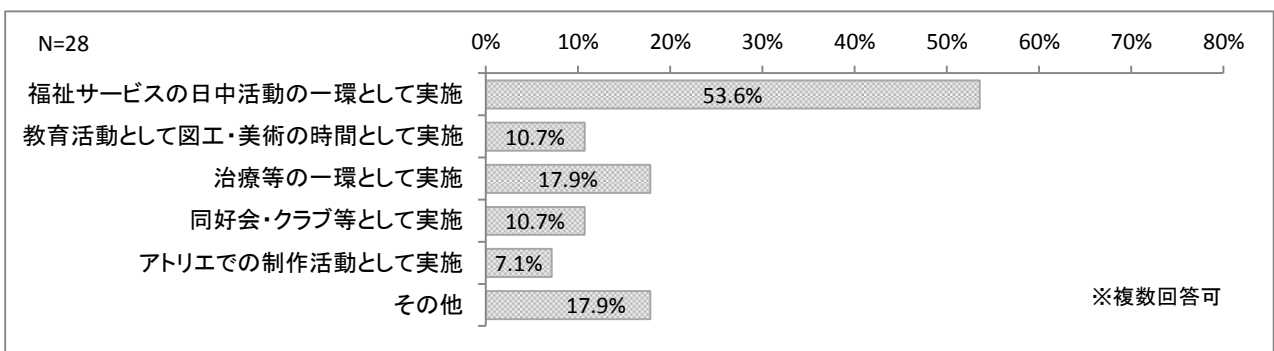
図表- 31 関連商品の販売(N=28)



⑧ 制作活動の形態

「福祉サービスの日中活動の一環として実施」が15団体と半数を超え、次に「治療等の一環として実施」が5団体・2割近くである。「アトリエの制作活動として実施」は2団体・7.1%であり、社会福祉法人と株式会社の各1団体のみである。

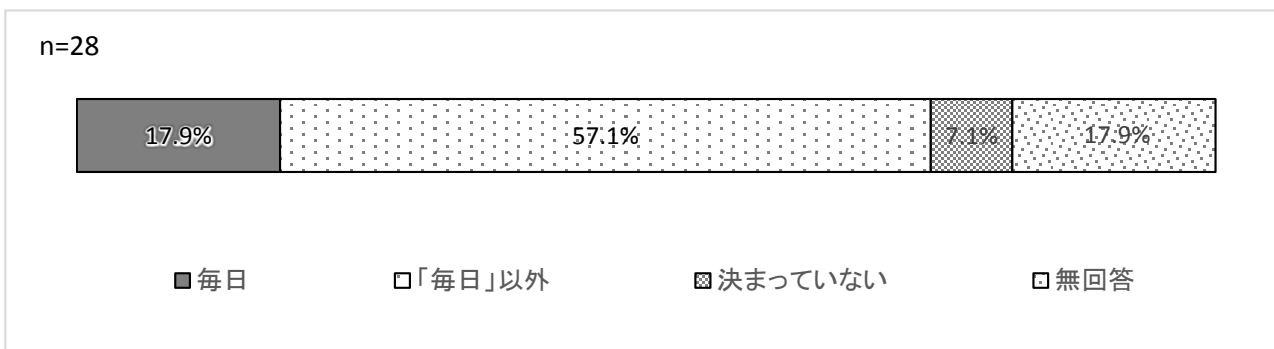
図表- 32 制作活動の形態(N=28)



⑨ 制作活動の実施頻度

「毎日」以外とする団体が16団体と6割弱、次いで「毎日」が5団体で2割弱である。なお、「毎日」以外の場合、月1~2回とするのが6団体、週に1~3日は5団体であるが、週4日以上は5団体であり、「毎日」と回答した5団体と合わせると10団体・4割近くとなる。

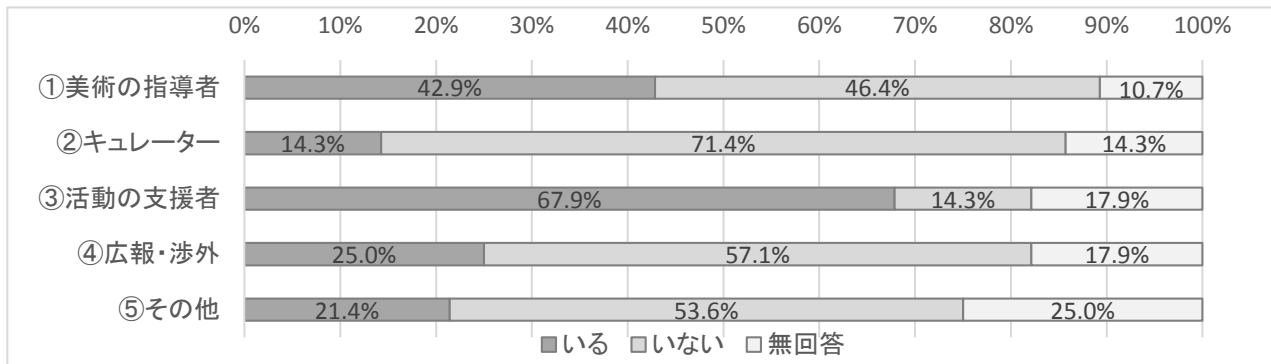
図表- 33 制作活動の実施頻度(N=28)



⑩ 制作活動の支援者の有無

制作活動の支援者として最も割合が高いのは、美術等に特化しない「③活動の支援者」で19団体・7割近くを占め、次いで「①美術の指導者」が12団体・4割強、「④広報・渉外」で7団体・25.0%である。なお、「①美術の指導者」の場合、12団体中8団体が専従の職員を配置している。

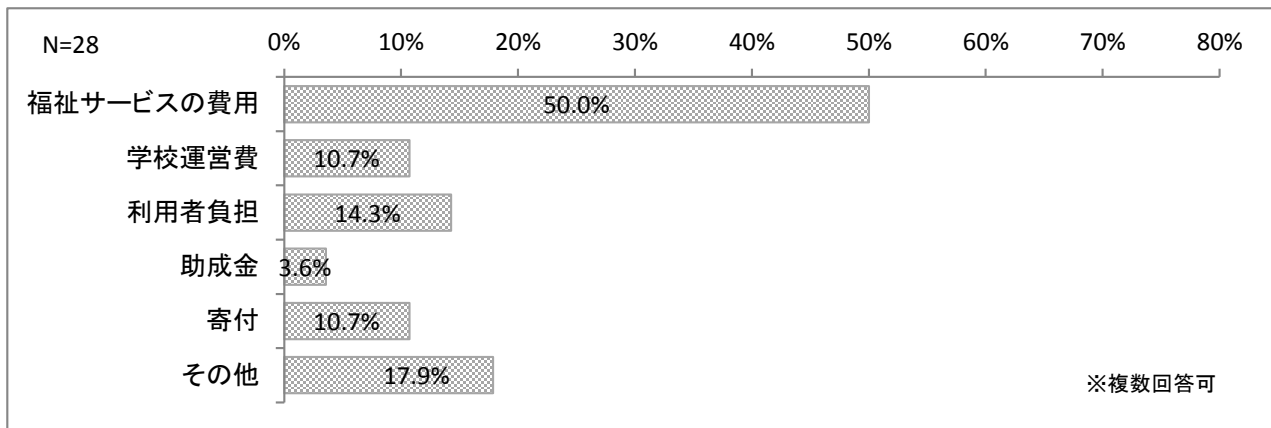
図表- 34 制作活動の支援者の有無(N=28)



⑪ 制作現場の活動原資

活動原資では、「福祉サービスの費用」が14団体で5割であり、次いで「利用者負担」(本人負担)が4団体で14.3%である。

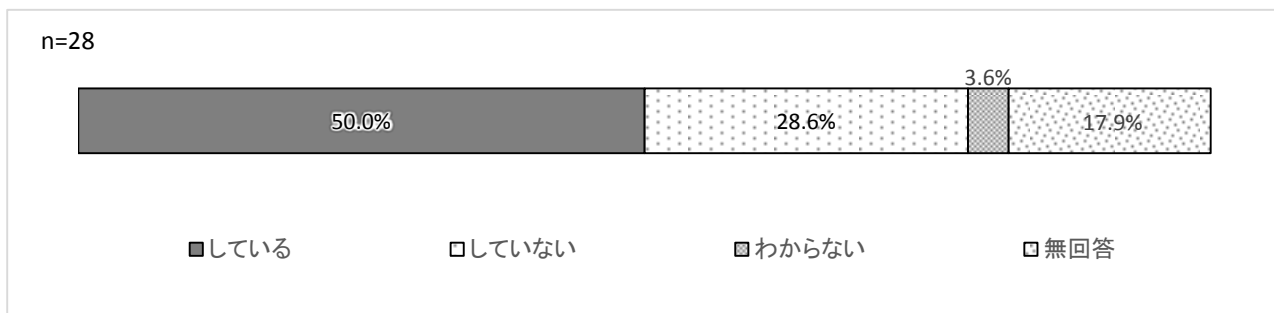
図表- 35 制作現場の活動原資(N=28)



⑫ 公募展への応募

公募展へ応募しているのは、14 団体・5 割である。

図表- 36 公募展への応募(N=28)



⑬ その他課題や意見

- ・作品の制作活動を支える専門職員が不足している
- ・「アール・ブリュット」自体に対する情報が不足している（セミナー、体験、見学、発表の場等）
- ・制作活動の工夫が必要である（他団体との共同創作等）
- ・制作現場におけるアール・ブリュットの認知度が低い

4. 各種機関による普及啓発取組調査

2000年度以降の行政機関やその他の団体におけるアール・ブリュットの普及啓発や展示、支援体制などについて調査を実施した。

1. 区市町村調査

(1) 調査について

① 調査の概要

本調査では、2000年度以降のアール・ブリュットに関する取組状況に関して東京都内の区市町村に調査を行い、その取組状況の確認を行った。その上で、地域ごとの傾向、特性等を確認した。

② 調査の対象

東京都内の区市町村・62団体が対象である。

③ 調査の実施期間

平成28年3月8日（火）～平成28年3月22日（火）

④ 調査の方法

メール送付もしくは郵送による自記式アンケート調査

⑤ 回収状況

調査対象（配布数）	62団体
回収した調査票	62団体
回収率	100.0%

⑥ その他

本調査においては、アール・ブリュットを「障がい者芸術」ととらえて実施する取組も含めている。

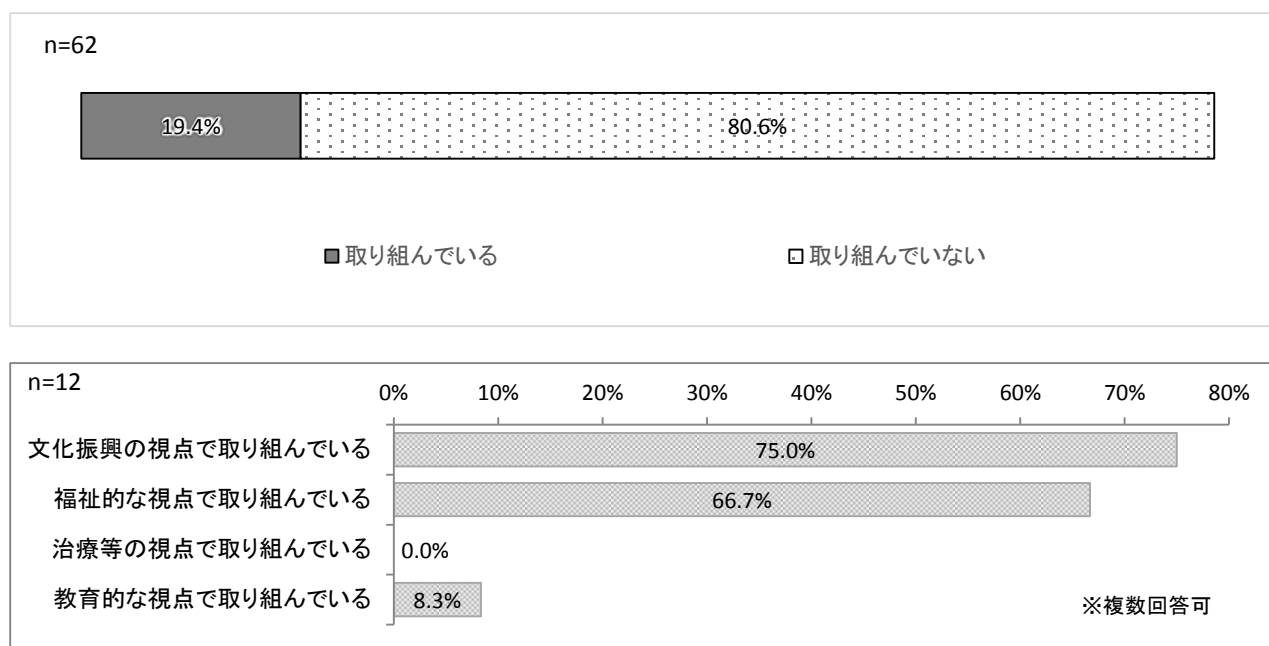
(2) 調査結果の概要

① アール・ブリュットの普及啓発への取組

アール・ブリュットの普及啓発に取り組んでいると回答したのは、12 団体・約 2 割である。その取り組みの視点としては、主として文化振興の視点で取り組んでいるとした団体が 9 団体、福祉的な視点で取り組んでいるとしたのが 8 団体である。

なお、文化振興の視点と福祉的な視点の双方を回答した団体は、5 団体である。

図表- 37 アール・ブリュットの普及啓発への取組(N=62)

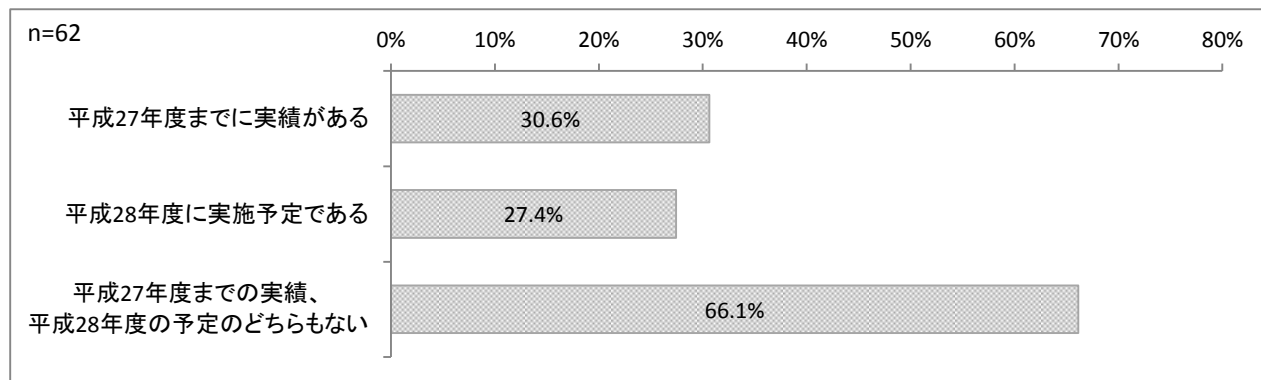


② アール・ブリュットの展覧会やイベントへの直接的な取組の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの展覧会やイベントに直接取り組んだ実績があるのは、19 団体・3 割であり、平成 28 年度に実施予定があるとしているのは 17 団体・3 割弱である。なお、平成 27 年度までに取り組んだ実績があり、平成 28 年度にも実施予定としているのは、15 団体・2 割程度である。

その一方で、平成 27 年度までの取組実績・平成 28 年度の予定の両方ともないと回答した団体は、41 団体・66.1%である。

図表- 38 アール・ブリュットの展覧会やイベントへの直接的な取組の有無(N=62)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

展覧会やイベントに直接取り組んだ実績として、19 団体のうち 18 団体より 30 の取組の回答があった。回答では企画展が 14 取組・46.7%で最も多いが、公募展も 13 取組・43.3%と大きくは変わらない。企画展の場合、主催が 10 取組と多くを占めるが、公募展の場合は主催が 8 取組、共催が 5 取組である。

【平成 28 年度予定のもの】

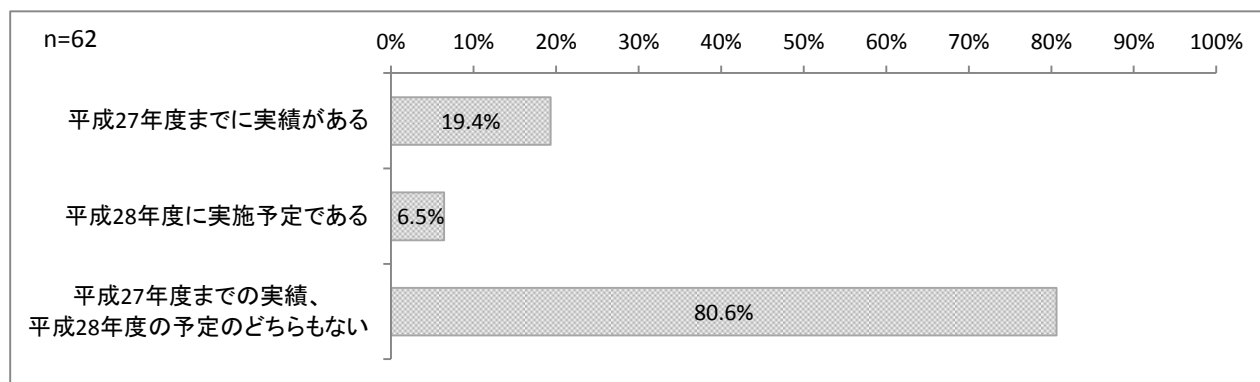
展覧会やイベントに直接取り組む予定として、17 団体より 23 の取組の回答があった。回答では企画展が 11 取組・47.8%で最も多く、公募展は 9 取組・39.1%である。企画展の場合、主催が 7 取組と過半数を占めるが、公募展の場合は主催が 5 取組、共催が 4 取組である。

③ アール・ブリュットの展覧会やイベントへの間接的な取組の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの展覧会やイベントに間接的に取り組んだ実績があるのは、12 団体・2 割弱である。(上記②の直接的な取組と、この間接的な取組のいずれかにおいて実績があるのは 25 団体で約 4 割となる。)

平成 28 年度に実施予定があるとしているのは 4 団体・6.5%である。なお、平成 27 年度までに取り組んだ実績があり、平成 28 年度にも実施予定としているのは、4 団体・2 割程度である。その一方で、平成 27 年度までの取組実績・平成 28 年度の予定の両方ともないと回答した団体は、50 団体・8 割を超える。

図表- 39 アール・ブリュットの展覧会やイベントへの間接的な取組の有無(N=62)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

展覧会やイベントに間接的に取り組んだ実績として、12 団体より 17 の取組の回答があった。回答では企画展が 10 取組・58.8%で最も多く、その場合には展示実施団体への助成・補助等、展示への後援、展示会場の提供等を行っている。

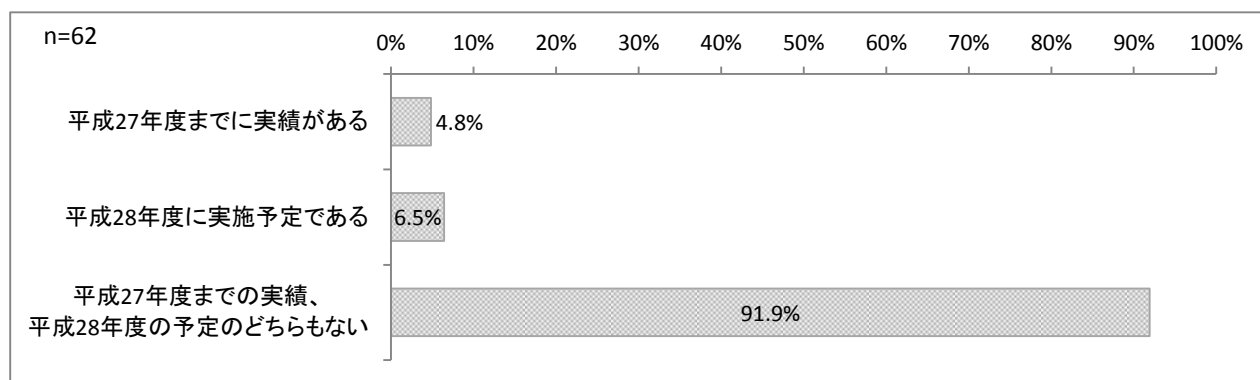
【平成 28 年度予定のもの】

展覧会やイベントに間接的に取り組む予定として、4 団体より 5 の取組の実績について回答があった。回答では企画展が 4 取組・80.0%で最も多く、その場合には展示への後援、展示会場の提供等を行っている。

④ アール・ブリュットの作品制作への直接的な支援の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの作品制作に直接的に取り組んだ実績があるのは、3 団体・4.8%であり、平成 28 年度に実施予定があるのも 4 団体・6.5%と少ない。なお、平成 27 年度までに取り組んだ実績があり、平成 28 年度にも実施予定としているのは、2 団体である。その一方で、平成 27 年度までの取組実績・平成 28 年度の予定の両方ともないと回答した団体は、57 団体・9 割を超える。

図表- 40 アール・ブリュットの作品制作への直接的な支援の有無(N=62)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

作品制作への直接的な支援の実績として、3 団体より 3 つの取組の回答があった。

うち、アート・ディレクター派遣事業、障がい者アート教室の 2 つの取組については、他団体と連携して事業を実施している

【平成 28 年度予定のもの】

作品制作の直接的な支援の予定として、4 団体より 4 つの取組の回答があった。

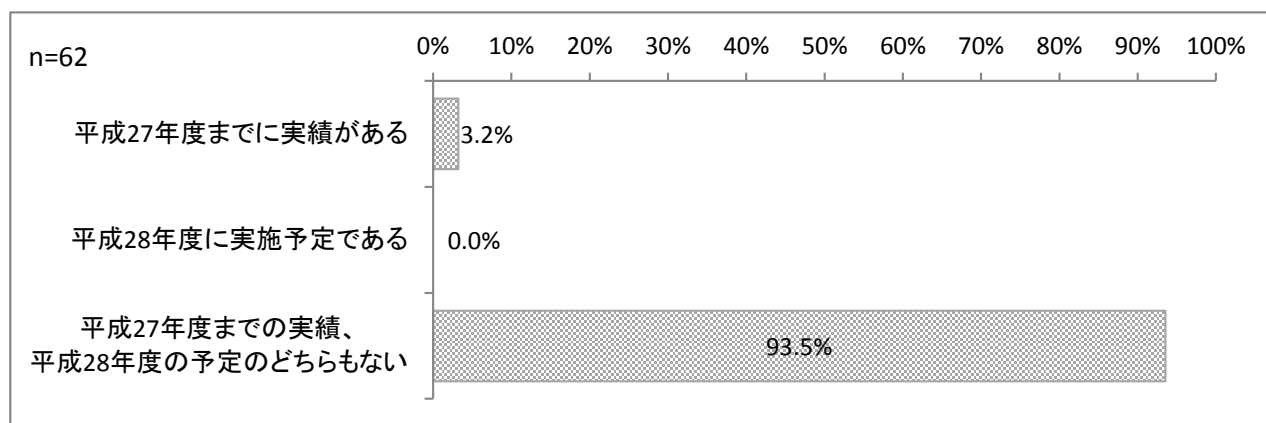
平成 27 年度から継続する事業に加え、作品制作のワークショップや福祉施設における作品制作事業があげられている。

⑤ アール・ブリュットの作品制作への間接的な支援の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの作品制作に間接的に取り組んだ実績があるのは、2 団体・3.2%であり、平成 28 年度に実施予定があるところはない。

その一方で、平成 27 年度までの取組実績・平成 28 年度の予定の両方ともないと回答した団体は、58 団体・9 割を超える。

図表- 41 アール・ブリュットの作品制作への間接的な支援の有無(N=62)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

作品制作への間接的な支援の実績として、2 団体より 2 つの取組の回答があった。

うち、1 つの取組は文化協会への運営補助であるが、もう 1 つはアートの展示を行いたいと考える店舗等の展示場所と展示したいと考えるアーティストのマッチングを行う協働事業者への助成金である。

2. 道府県調査

(1) 調査について

① 調査の概要

本調査では、2000 年度以降のアール・ブリュットに関する取組状況に関して 46 道府県に対して調査を行い、その取組状況の確認を行った。その上で、地域ごとの傾向、特性等を確認した。

② 調査の対象

全国の道府県・46 団体が対象である。

③ 調査の実施期間

平成 28 年 3 月 8 日（火）～平成 28 年 3 月 22 日（火）

④ 調査の方法

メール送付もしくは郵送による自記式アンケート調査

⑤ 回収状況

調査対象（配布数）	46 団体
回収した調査票	36 団体
回収率	78.3%

⑥ その他

本調査においては、アール・ブリュットを「障がい者芸術」ととらえて実施する取組も含めている。

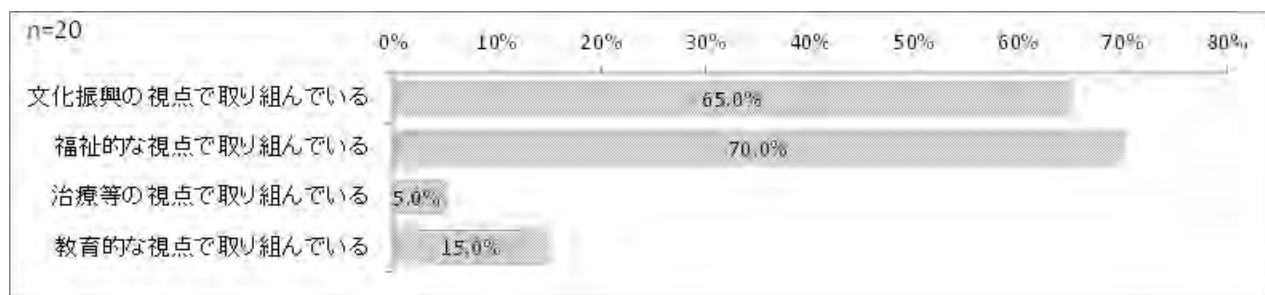
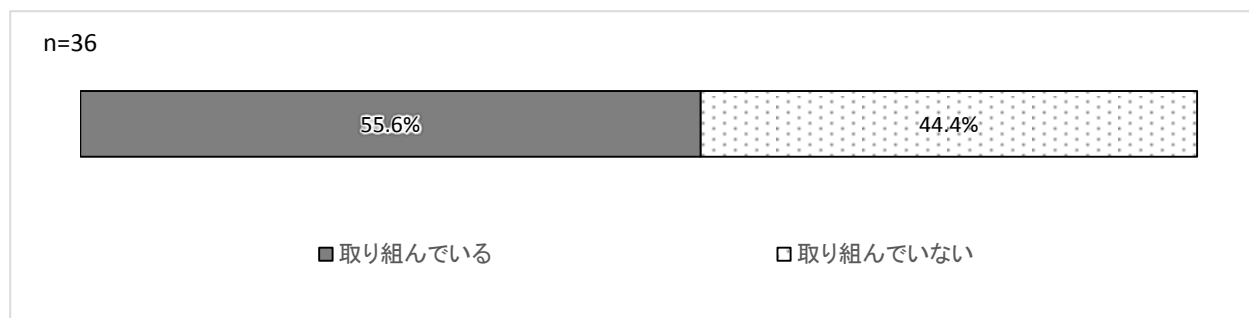
(2) 調査結果の概要

① アール・ブリュットの普及啓発への取組

アール・ブリュットの普及啓発に取り組んでいると回答したのは、20 団体・55.6%である。その取組の視点としては、主として福祉的な視点で取り組んでいるとしたのが 14 団体、文化振興の視点で取り組んでいるとした団体が 13 団体である。

なお、福祉的な視点と文化振興の視点の双方を回答した団体は、8 団体・2 割強である。

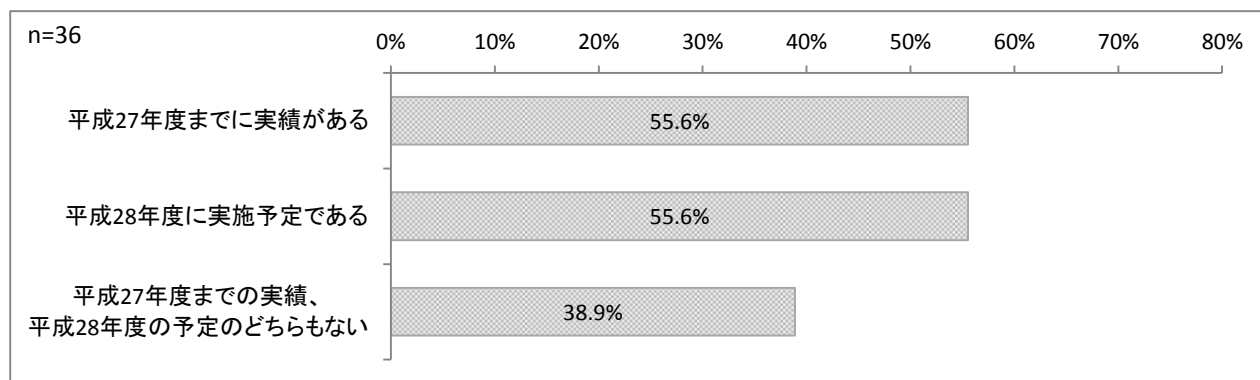
図表- 42 アール・ブリュットの普及啓発への取組(N=36)



② アール・ブリュットの展覧会やイベントへの直接的な取組の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの展覧会やイベントに直接取り組んだ実績があるのは、20 団体・55.6%であり、平成 28 年度に実施予定があるとしているのも 20 団体・55.6%である。なお、平成 27 年度までに取り組んだ実績があり、平成 28 年度にも実施予定としているのは、19 団体である。その一方で、平成 27 年度までの取組実績・平成 28 年度の予定の両方ともないと回答した団体は、14 団体・約 4 割である。

図表- 43 アール・ブリュットの展覧会やイベントへの直接的な取組の有無(N=36)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

展覧会やイベントに直接取り組んだ実績として、20 団体から 38 の取組の回答があった。

回答では企画展が 18 取組・47.4%で最も多いが、公募展も 16 取組・42.1%と大きくは変わらない。企画展の場合、主催が 17 取組と多くを占めるが、公募展の場合も主催が 13 取組と多くを占めている。

【平成 28 年度予定のもの】

展覧会やイベントに直接取り組む予定として、20 団体から 26 の取組の回答があった。

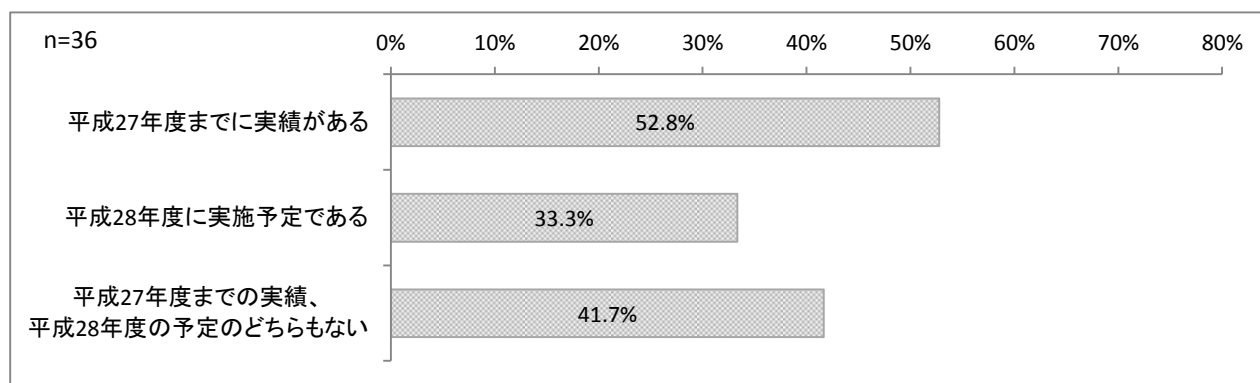
回答では公募展が 13 取組・50%で最も多く、企画展は 10 取組・38.4%である。企画展の 10 取組はすべて主催によるものであり、公募展の場合も主催が 10 取組と多くを占めている。

③ アール・ブリュットの展覧会やイベントへの間接的な取組の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの展覧会やイベントに間接的に取り組んだ実績があるのは、19 団体・5 割を超える。(上記②の直接的な取組と、この間接的な取組のいずれかにおいて実績があるのは 28 団体で、回答した団体の 8 割弱、全道府県の約 6 割となる)

平成 28 年度に実施予定があるとしているのは 12 団体・33.3%である。なお、平成 27 年度までに取り組んだ実績があり、平成 28 年度にも実施予定としているのは、11 団体・3 割強である。その一方で、平成 27 年度までの取組実績・平成 28 年度の予定の両方ともないと回答した団体は、15 団体・4 割強である。

図表- 44 アール・ブリュットの展覧会やイベントへの間接的な取組の有無(N=36)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

展覧会やイベントに間接的に取り組んだ実績として、19 団体より 26 の取組の回答があった。回答では企画展が 18 取組・69.2%で最も多く、その場合には展示実施団体への助成・補助等、展示への後援等を行っている。

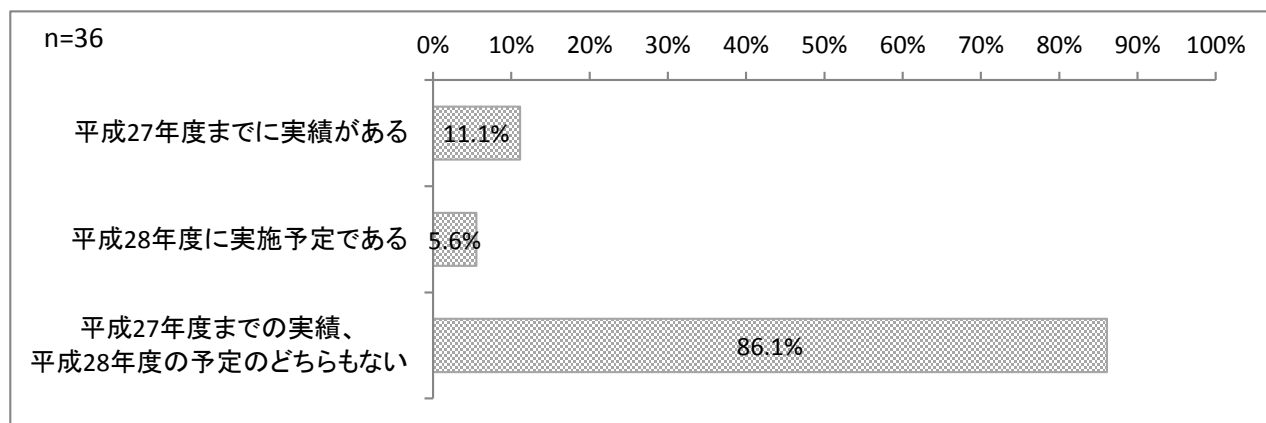
【平成 28 年度予定のもの】

展覧会やイベントに間接的に取り組む予定として、12 団体中 10 団体より 11 の取組の回答があった。回答では企画展が 7 取組・63.6%で最も多く、その場合には展示への後援、展示会場の提供等を行っている。

④ アール・ブリュットの作品制作への直接的な支援の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの作品制作に直接的に取り組んだ実績があるのは、4 団体・1 割程度であり、平成 28 年度に実施予定があるのは 2 団体・5.6%である。なお、平成 27 年度までに取り組んだ実績があり、平成 28 年度にも実施予定としているのは、2 団体である。その一方で、平成 27 年度までの取組実績・平成 28 年度の予定の両方ともないと回答した団体は、31 団体・9 割近くを占める。

図表- 45 アール・ブリュットの作品制作への直接的な支援の有無(N=36)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

作品制作の直接的な支援の取組の実績としては、4 団体より 5 つの取組の回答があった。具体的には、人材育成事業、アール・ブリュットの啓発事業、文化芸術アドバイザー派遣、障がい者の自立支援事業、社会参加促進事業である。

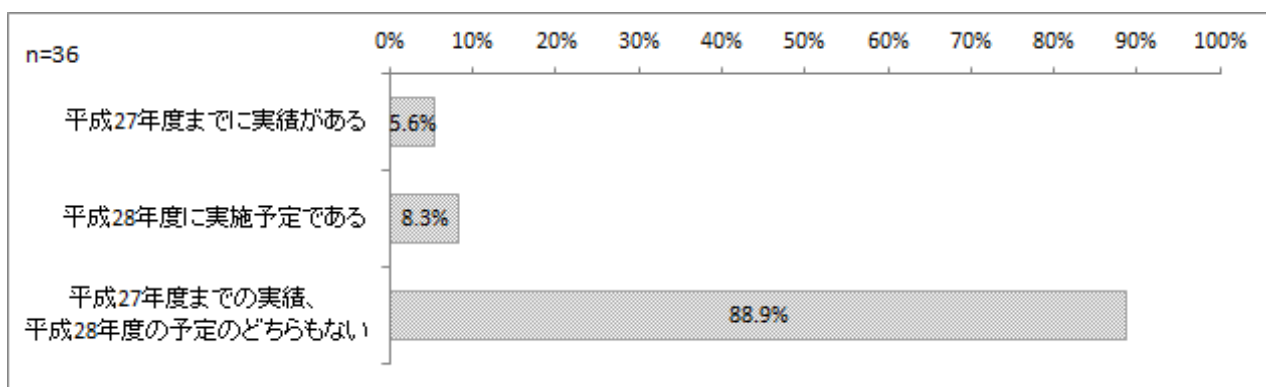
【平成 28 年度予定のもの】

作品制作の直接的な支援の取組の予定としては、3 団体より 3 つの取組の回答があった。具体的には、人材育成事業、アール・ブリュットの啓発事業、障がい者の社会参加促進事業である。

⑤ アール・ブリュットの作品制作への間接的な支援の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの作品制作に間接的に取り組んだ実績があるのは、2 団体・5.6%であり、平成 28 年度に実施予定であるのは 3 団体・8.3%である。うち、平成 27 年度までの実績と平成 28 年度の予定の両方があると回答したのも、2 団体である。その一方で、平成 27 年度までの取組実績・平成 28 年度の予定の両方ともないと回答した団体は、32 団体・約 9 割を占める。

図表- 46 アール・ブリュットの作品制作への間接的な支援の有無(N=36)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

作品制作の間接的な支援の取組の実績としては、2 団体より 2 つの取組の回答があり、いずれも障がい者の芸術文化活動の支援事業として制作の支援団体に対して助成を行っている。

【平成 28 年度予定のもの】

作品制作の間接的な支援の取組の予定としては、3 団体より回答があった。

具体的には、作品の発掘調査事業、人材育成事業、障がい者の芸術文化活動の助成事業である。

3. その他団体等調査

(1) 調査について

① 調査の概要

本調査では、アール・ブリュットに関する取組状況に関して国内の行政以外の機関に調査を行い、その取組状況の確認を行った。その上で、地域ごとの傾向、特性等を確認した。

② 調査の対象

文献調査、インターネット等によって、全国でアール・ブリュットに関する展示や制作支援等に取り組む団体の確認を実施、芸術系大学、総合大学、NPO 法人、社会福祉法人等の 47 団体を対象とする。

③ 調査の実施期間

平成 28 年 3 月 8 日（火）～平成 28 年 3 月 22 日（火）

④ 調査の方法

メール送付もしくは郵送による自記式アンケート調査

⑤ 回収状況

調査対象（配布数）	47 団体
	うち大学が 8 団体、その他の団体が 39 団体
回収した調査票	36 団体
	うち大学が 6 団体・その他の団体が 30 団体
回収率	76.6%（調査対象に対する割合）
	うち大学 75.0%、その他の団体 76.9%

⑥ その他

本調査においては、アール・ブリュットを「障がい者芸術」ととらえて実施する取組も含めている。

(2) 調査結果

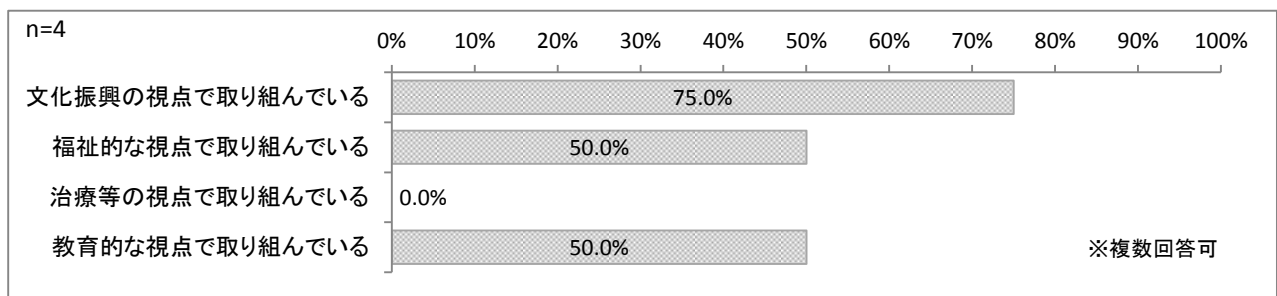
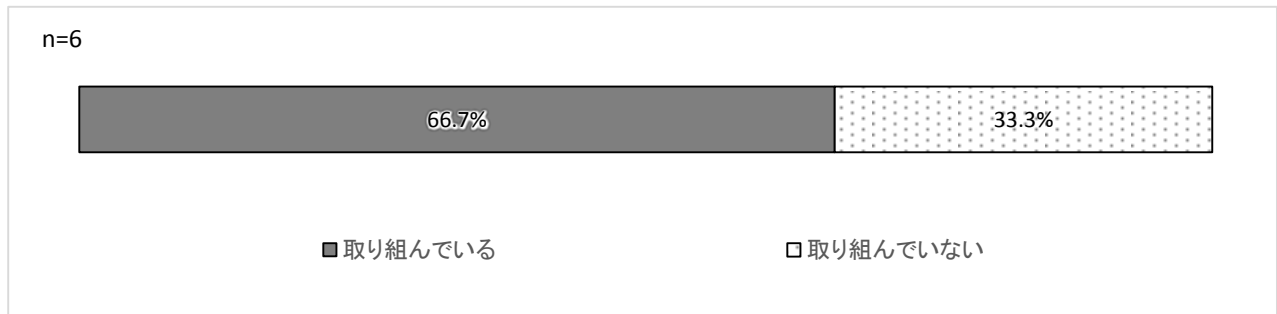
-1.大学による取組

① アール・ブリュットの普及啓発への取組

アール・ブリュットの普及啓発に取り組んでいると回答したのは、4 団体・66.7%である。その取組の視点としては、主として文化振興の視点で取り組んでいるとしたのが 3 団体、福祉的な視点で取り組んでいるとした団体が 2 団体である。

なお、福祉的な視点と文化振興の視点の双方を回答した団体は、1 団体である。

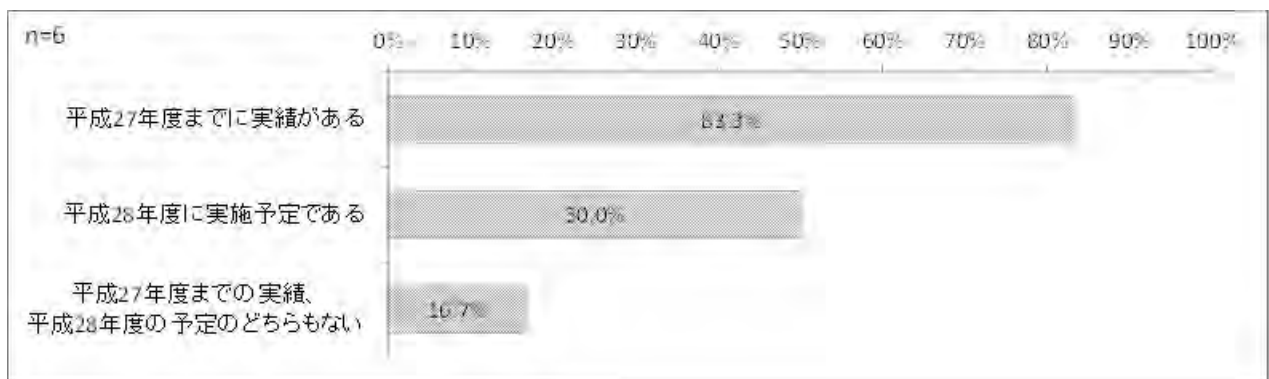
図表- 47 アール・ブリュットの普及啓発への取組



② アール・ブリュットの展覧会やイベントへの取組の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの展覧会やイベントに取り組んだ実績があるのは、5 団体・8 割強であり、平成 28 年度に実施予定があるとしているのも 3 団体・5 割である。なお、平成 27 年度までに取り組んだ実績があり、平成 28 年度にも実施予定としているのは、3 団体である。

図表- 48 アール・ブリュットの普及啓発への取組(N=6)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

展覧会やイベントに取り組んだ実績として、5 団体より 11 の取組の回答があった。

回答では企画展とその他が 5 取組・45.5%と同じである。その他については、シンポジウム、研究会等である。

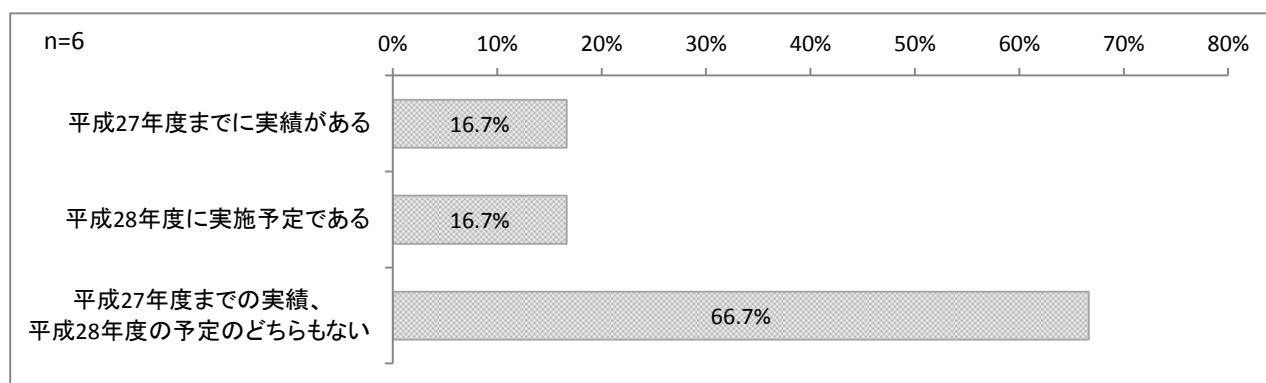
【平成 28 年度予定のもの】

展覧会やイベントの取組の予定としては、3 団体より 3 つの取組の回答があった。うち、2 団体が実施する 2 つの取組については、企画による作品展であり、うち 1 つの取組は主催である。別団体による 1 つの取組は、制作に関する研究会である。

③ アール・ブリュットの作品制作への取組の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの作品制作支援に取り組んだ実績があるのは、1 団体・16.7%であり、平成 28 年度に実施予定があるのも同様である。なお、平成 27 年度までに取り組んだ実績があり、平成 28 年度にも実施予定としているのは、1 団体である。その一方で、平成 27 年度までの取組実績・平成 28 年度の予定の両方ともないと回答した団体は、4 団体・66.7%である。

図表- 49 アール・ブリュットの作品制作へ取組の有無(N=6)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

作品制作支援の取組の実績としては、1 団体より 2 つの取組の回答があった。いずれも版画もしくは絵画のワークショップ形式のアウトリーチ活動であり、2 か所において展開している。

④ その他の取組事例

3 団体より回答が寄せられた。シンポジウムへのパネリスト参加、学教員が研究の一環で取り組む事業への支援、大学内の講義におけるアール・ブリュットの定義についての課題提起が、それぞれ 1 団体からあげられている。

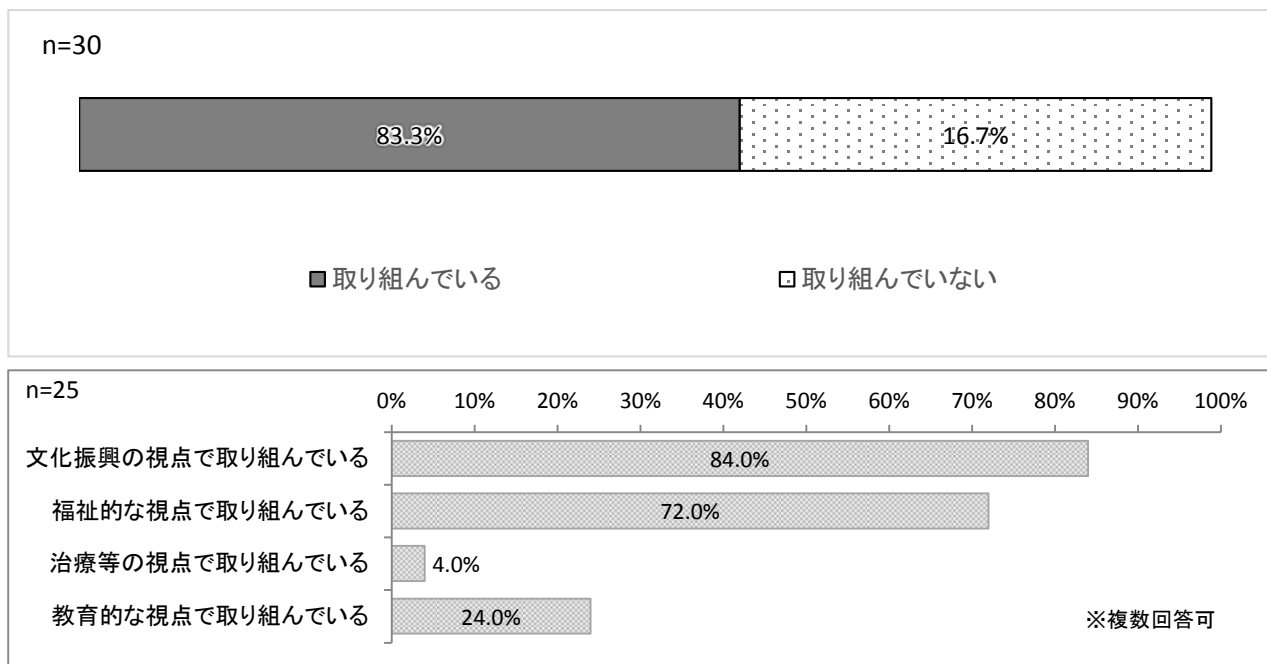
-2. 社会福祉法人、NPO、特別支援学校等による取組

① アール・ブリュットの普及啓発への取組

アール・ブリュットの普及啓発に取り組んでいると回答したのは、25 団体・8 割強である。その取組の視点としては、主として文化振興の視点で取り組んでいるとしたのが 21 団体、福祉的な視点で取り組んでいるとした団体が 18 団体である。

なお、福祉的な視点と文化振興の視点の双方を回答した団体は、15 団体である。

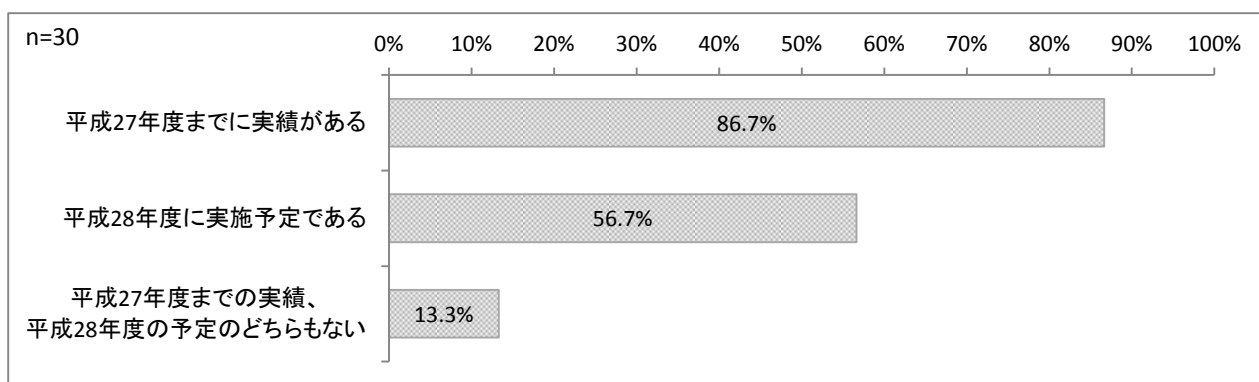
図表- 50 アール・ブリュットの普及啓発への取組



② アール・ブリュットの展覧会やイベントへの取組の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの展覧会やイベントに直接取り組んだ実績があるのは、26 団体・9 割近くに及び、平成 28 年度に実施予定があるとしているのは 17 団体・56.7% である。なお、平成 27 年度までに取り組んだ実績があり、平成 28 年度にも実施予定としているのは 17 団体であり、継続して取り組んでいる状況が見られる。

図表- 51 アール・ブリュットの展覧会やイベントへの取組の有無(N=30)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

展覧会やイベントに取り組んだ実績として、団体 26 団体より 84 の取組の回答があった。

回答では企画展が 61 取組・72.6%で最も多く、うち主催は 32 取組と過半数を占める。また、展示については、展示数が 3 桁を超えるものも少なくない。

【平成 28 年度予定のもの】

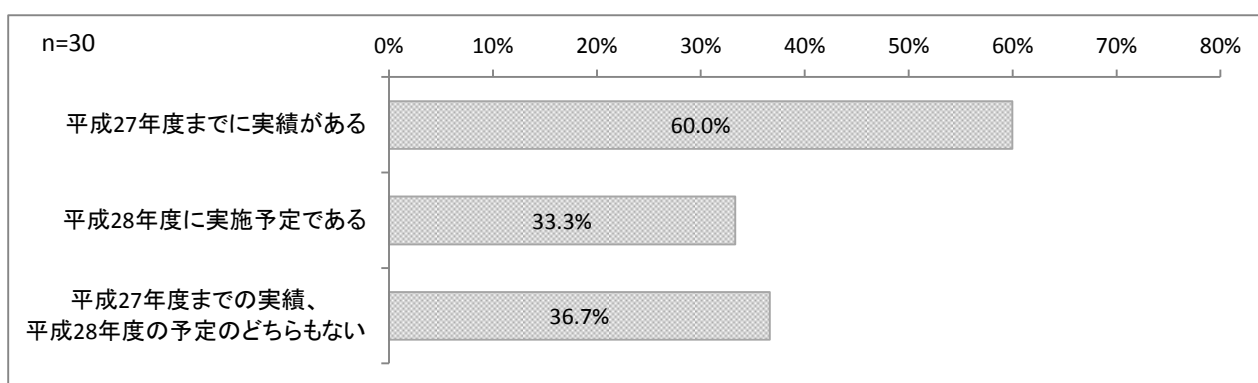
展覧会やイベントに直接取り組む予定として、17 団体より 21 の取組の回答があった

回答では企画展が 14 取組・66.7%で最も多い。企画展の場合、主催が 9 取組と過半数を占める。

③ アール・ブリュットの作品制作への取組の有無

平成 27 年度までにアール・ブリュットの作品制作支援に取り組んだ実績があるのは、18 団体・6割であり、平成 28 年度に実施予定があるのは 10 団体・3割程度である。なお、平成 27 年度までに取り組んだ実績があり、平成 28 年度にも実施予定としているのは、9 団体である。その一方で、平成 27 年度までの取組実績・平成 28 年度の予定の両方ともないと回答した団体は、11 団体・36.7%である。

図表- 52 アール・ブリュットの作品制作への取組の有無(N=30)



【平成 27 年度までの代表的な実績】

作品制作に取り組んだ実績として、団体 18 団体より 24 の取組の回答があった。

4 つの取組では、利用者の障がいの有無を特に問わずに制作活動の場を設けて活動している。その他は、当該事業所等の利用者等が日中活動として実施しているものや、障がい者を対象とした絵画教室等の制作支援活動である。

【平成 28 年度予定のもの】

作品制作に取り組む予定として、10 団体中の 9 団体より 10 の取組の回答があり、障がい者を対象とした絵画教室等の制作支援活動やアトリエ設立等があげられている。

④ その他の取組事例

23 団体より回答があり、啓発や広報等に関するもののほか、著作権保護について等作家に対する支援や作品販売、人材育成等についての取組があげられた。

5. アール・ブリュット展示の結果報告

1. 展示の目的

人が多く集まる場所において、様々な人にアール・ブリュット作品鑑賞の機会を提供することで普及啓発を図るとともに、その結果を分析し、今後の施策検討に活かすことを目的として実施。

2. 実施概要

	第1回展示	第2回展示
展示イベント名	アール・ブリュット美術展	
入場料	無料	
会期	平成28年6月25日(土) ～6月30日(木)〔6日間〕	平成28年11月4日(金) ～11月6日(日)〔3日間〕
開場時間	9:30～17:30 ※6/27のみ 9:30～23:00	11/4 13:00～19:00 11/5 10:00～19:00 11/6 10:00～17:00
会場	東京都庁 南展望室 (第一本庁舎45階) 〔新宿区西新宿2-8-1〕	東京国際フォーラム ガラス棟ロビーギャラリー 〔千代田区丸の内3-5-1〕
展示エリア面積	64 m ²	140 m ²
出展作家数	8名	15名
出展作品数	82点	236点 (うち1点、触れる立体作品)
来場者数	3,616名	1,247名
一日あたりの 平均来場者数	約603名	約416名
アンケート回収 数	117枚	60枚
アンケート回収 率	3.2%	4.8%
アンケート回収 数における英語 版回収数の割合	12.0%	6.7%

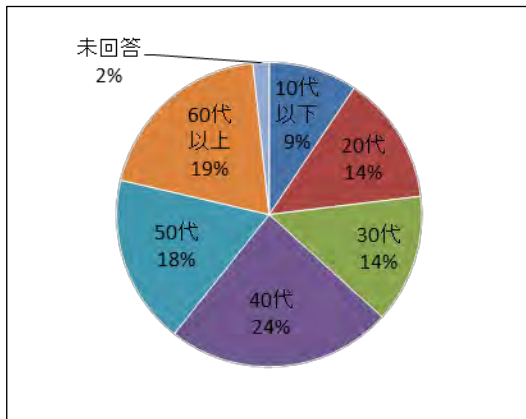
3. アンケート結果分析

(1) 都庁南展望室での展示

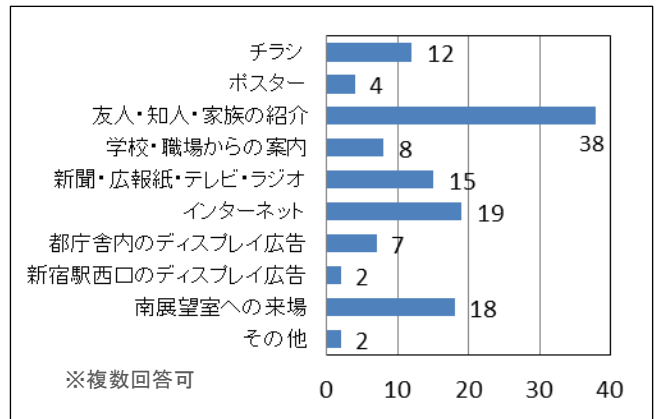
① 全体分析

- ・来場者は40代が最も多く、20代以下の若い世代が占める割合は比較的低い
- ・来場のきっかけは、「友人・知人・家族の紹介」が最も多いが、「南展望室への来場」も比較的高い
- ・アール・ブリュットを「知らなかった」、「言葉は聞いたことがあったが詳しくは知らなかった」を合わせると43%であり、多くの人が新たにアール・ブリュットに触れる良い機会となっている
- ・満足度は「とても満足」と「満足」をあわせて87%
- ・再訪意向は「是非鑑賞したい」と「機会があれば鑑賞したい」をあわせて94%

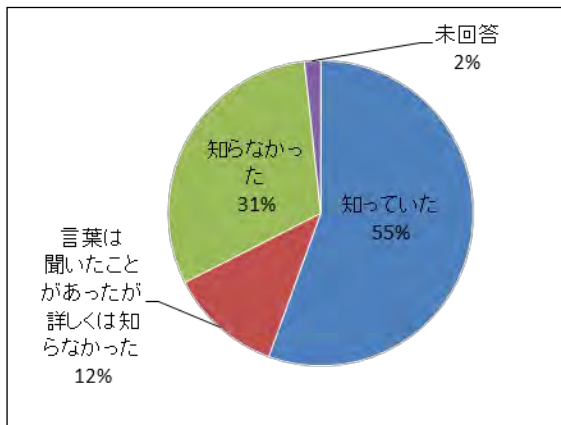
図表-53 来場者世代分布



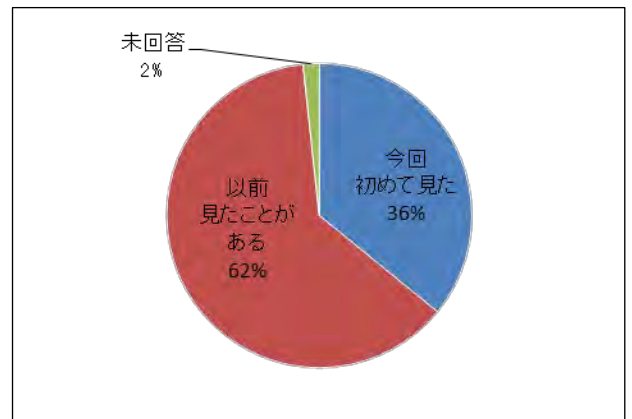
図表-54 来場のきっかけ



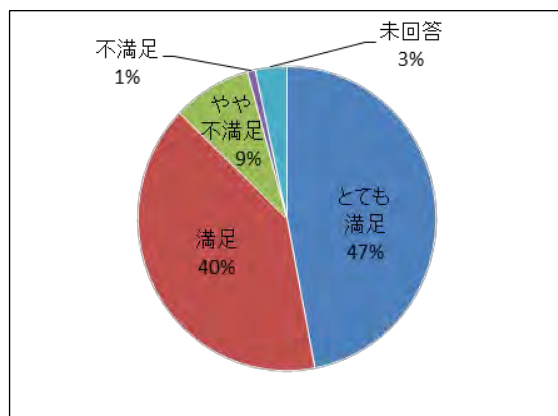
図表-55 アール・ブリュットの認知度



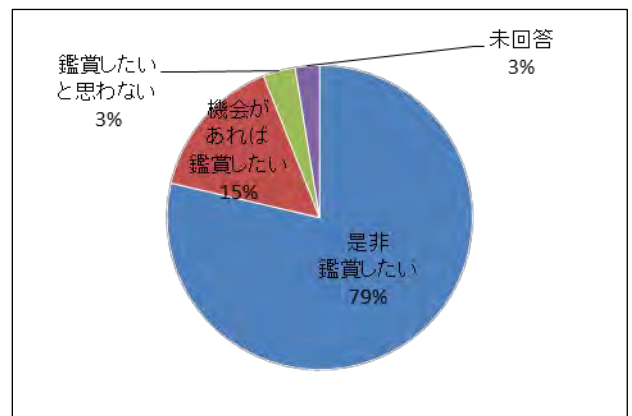
図表-56 アール・ブリュットの鑑賞経験



図表-57 展示の満足度

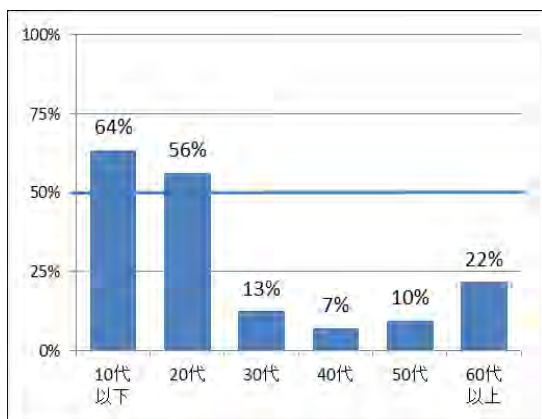


図表-58 再訪意向

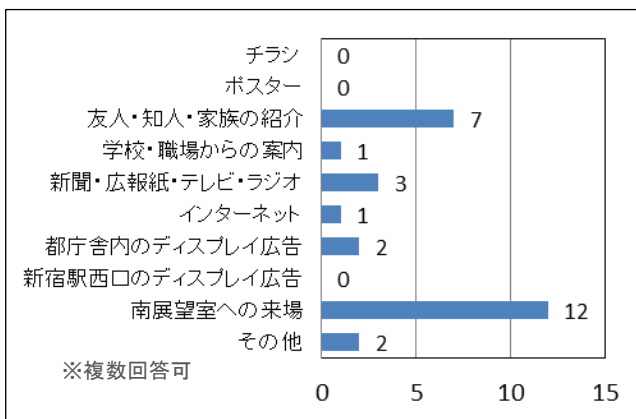


- ② 普及啓発の効果（アール・ブリュットを「知らなかった」かつ「今回初めて見た」層の分析）
- ・10代以下、20代の来場者の半数以上が、「知らなかった」かつ「今回初めて見た」
→若い世代における認知度が低い
 - ・来場のきっかけは「南展望室への来場」、次いで「友人・知人・家族の紹介」が多い
 - ・満足度は「とても満足」と「満足」をあわせて89%で、来場者全体における満足度と同じく高い水準にある
 - ・再訪意向は「是非鑑賞したい」と「機会があれば鑑賞したい」をあわせて89%
→認知していなかった層も、鑑賞で満足感を得られ、再訪につながる可能性が高い

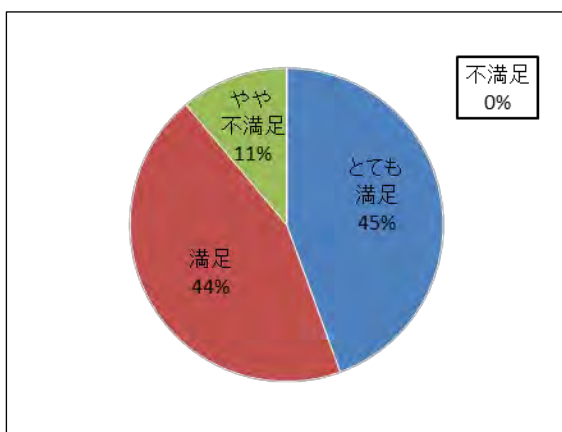
図表-59 「知らなかった」かつ「今回初めて見た」人の割合(世代別)



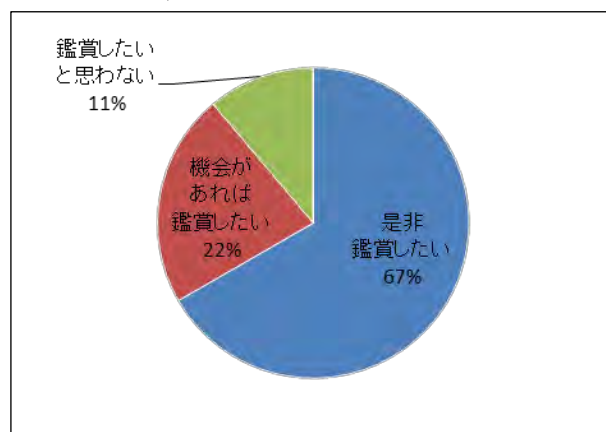
図表-60 来場のきっかけ



図表-61 展示の満足度



図表-62 再訪意向



③ 主な感想等

■アール・ブリュットを「知らなかった」来場者

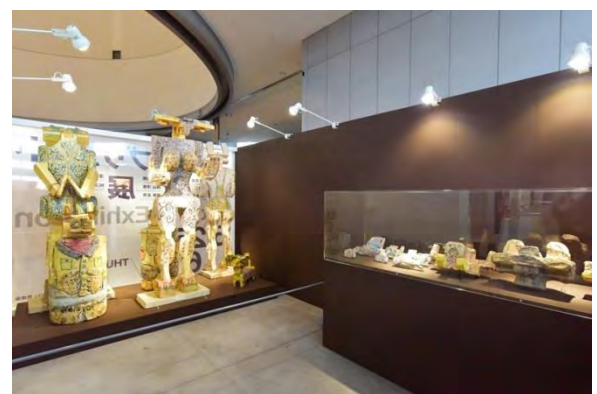
- ・心に響いてくるものがたくさんありました
- ・面白い作品が多く、予想できない構成が良い。表現として色々な方法があると思いました
- ・日常自分の感情を型にはめて言葉を出している習慣がしみついていることを気づかされた
- ・偶然、都庁に用事があり、展望室へ来ましたが、すい込まれる様に見入ってしまいました

■アール・ブリュットを「知っていた」来場者

- ・思ってもみない表現に毎回驚きます
- ・何故か涙が出そうになりました。自分でもよくわからない気持ちですが、とても心がふるえました

- ・本でみただけでしたので実物を見ることができて感動しています
 - ・アール・ブリュットの作品には力と魂がある。ある種のインスピレーションと idea を与えられる
 - ・素晴らしい作品を明るい場所で見られたのが新鮮でした
 - ・それぞれの強い個性を味わうことができ、とても楽しかったです！
 - ・制作された方々が、落ち着いた環境で今後も制作を続けられますよう行政などのバックアップが必要
- 「不満足」又は「やや不満足」だった来場者
- ・もっと大きなスペースで鑑賞したい
 - ・作品数が少ないのが不満でした
 - ・まだまだ知られていないアール・ブリュットの魅力を伝えるために、もっと大規模かつ長期間の展示を望みます

④ 展示の様子

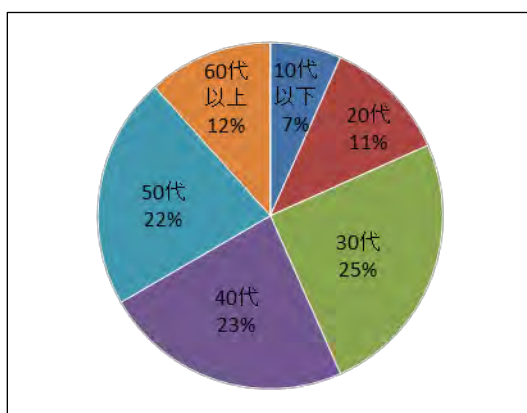


(2) 東京国際フォーラムでの展示

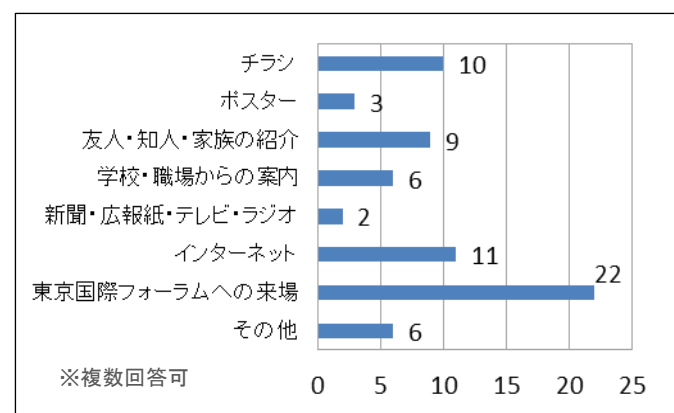
① 全体分析

- ・来場者は30代～50代の各年代がいずれも20%強と比較的高い。20代以下の若い世代が占める割合は比較的低い
- ・来場のきっかけは、「東京国際フォーラムへの来場」が最も多い
- ・アール・ブリュットを「知らなかった」、「言葉は聞いたことがあったが詳しくは知らなかった」を合わせると43%であり、多くの人が新たにアール・ブリュットに触れる良い機会となっている
- ・満足度は「とても満足」と「満足」をあわせて97%
- ・再訪意向は「是非鑑賞したい」と「機会があれば鑑賞したい」をあわせて98%
→第1回展示で不満な点としてあがっていた「会場が狭い」「作品が少ない」が解消されたことで向上した可能性が高い

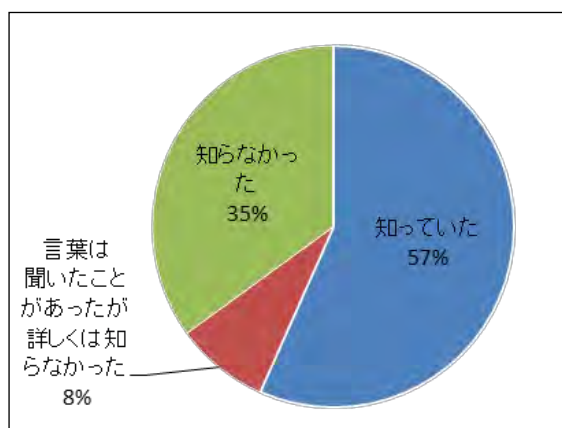
図表-63 来場者世代分布



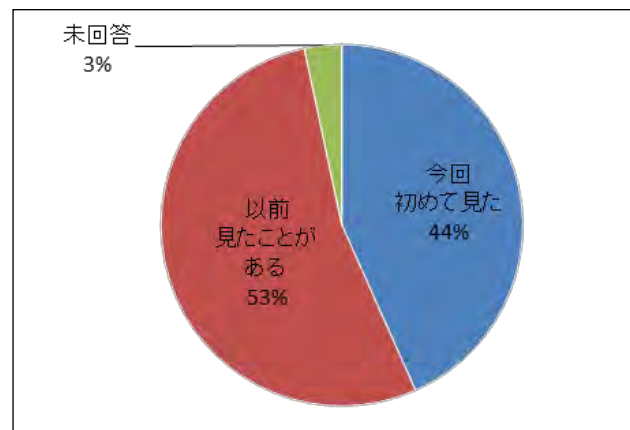
図表-64 来場のきっかけ



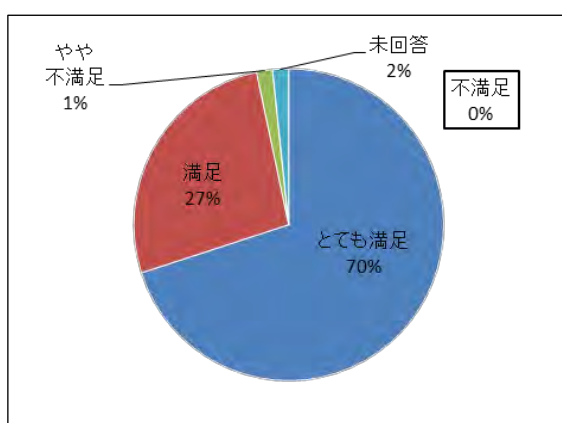
図表-65 アール・ブリュットの認知度



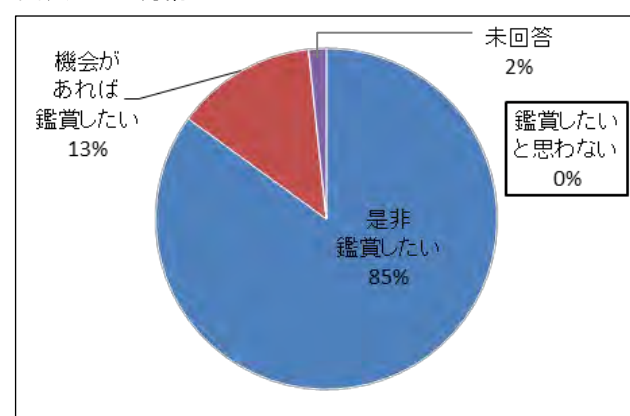
図表-66 アール・ブリュットの鑑賞経験



図表-67 展示の満足度



図表-68 再訪意向



② 普及啓発の効果（アール・ブリュットを「知らなかった」かつ「今回初めて見た」層の分析）

・10代以下、20代の来場者の半数以上が、「知らなかった」かつ「今回初めて見た」

→若い世代における認知度が低い

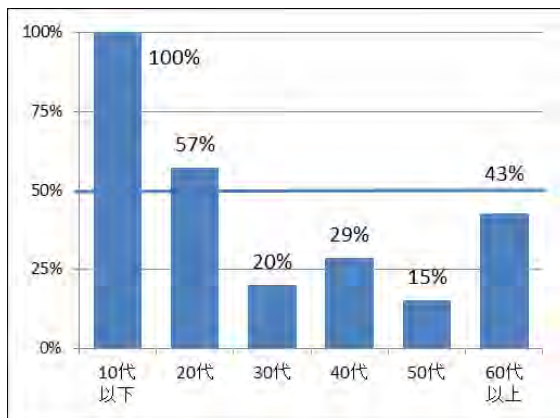
・来場のきっかけは「東京国際フォーラムへの来場」が最も多い。「その他」には「帰り道でみかけて、おもしろそうだったから」「通りすがり」など。

・満足度は「とても満足」と「満足」をあわせて100%

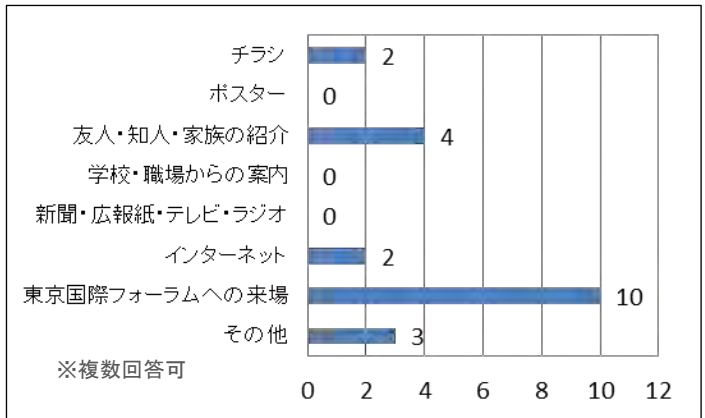
・再訪意向は「是非鑑賞したい」と「機会があれば鑑賞したい」をあわせて100%

→認知していなかった層も、鑑賞で満足感を得られ、再訪につながる可能性が高い

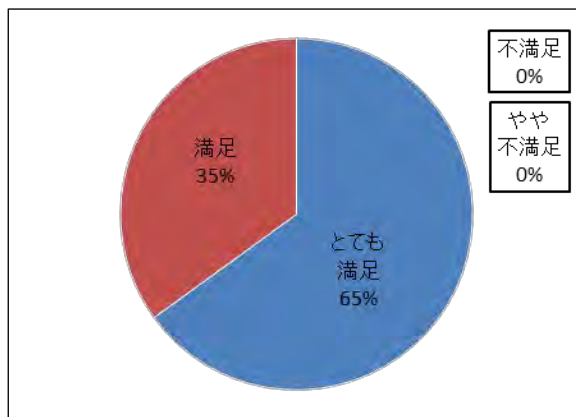
図表-69 「知らなかった」かつ「今回初めて見た」人の割合(世代別)



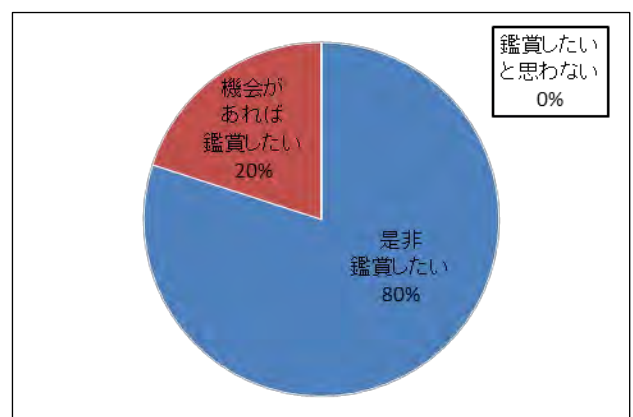
図表-70 来場のきっかけ



図表-71 展示の満足度



図表-72 再訪意向



③ 主な感想等

■アール・ブリュットを「知らなかった」来場者

- ・発想の豊かさに感動です
- ・脳の不思議を思わせる。通常の人と見えているものが違うのか。感性にあふれたすばらしい芸術。人間の創造力のすばらしさに脱帽
- ・インパクトがすごかった。心の中が訳もなくざわついた。

■アール・ブリュットを「知っていた」来場者

- ・アートの本質がそのままゴロンと立ち現われている印象。ひたすら感動した。
- ・作品を拝見し、自分の内側から力が湧いてきました。作家の創造力が伝播したのだと思います。「何か作ってみたい」という気持ちです

- ・ どの方の作品も素晴らしく胸に心にストレートに飛び込んできます。
- ・ アール・ブリュット展は、来た人を幸せな気持ちにしてくれる作品が多いと思います。
- ・ 力のある作品が多く、見ごたえがありました。
- ・ 多くの人が見ておもしろい展示だと思う。

■ その他の意見・要望

- ・ もっとたくさん展示してほしい
- ・ さわれる展示がもっとあっても良いと思います
- ・ もっといろいろな方の作品も見てみたい
- ・ もう少し期間がながいとうれしいです。
- ・ もっとPRすべき活動と思います。
- ・ 多くの方に是非見て知ってもらいたい
- ・ もっと早く知りたかった
- ・ 何かグッズがあればいいと思いました。

④ 展示の様子

